

授業科目名	<b>地域・学校実践演習 I</b>				
担当教員名	服部敬一				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校教諭（23年）、小学校教頭（5年）、教育委員会指導主事（2年）、小学校校長（7年）（全15回）				

### 授業概要

地域の教育施設や学校園等のフィールドワークを行う。地域の教育施設や学校園等にボランティアあるいはインターンシップとして参加し、参与観察および関係者へのインタビュー等を通して、学校道徳教育上の課題をはじめ、教員や教育職員、子ども、保護者が抱えている課題は何かを探究する。その探究方法として、ケースメソッドによる省察を行う。そのために、省察的实践と本授業で参与している事例について、学問領域、校種、年齢、学校と地域などの領域を超えて、事例を多角的・多面的に考察し、実践への方向を探る。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

中央教育審議会答申や学習指導要領に沿って教育課題を実際の実践の観察により確かめ、その解決方途を論議し、自己の実践課題を形成する。

#### 目標：

教育の創造過程を内省するとともに、教育の成果を客観的に評価できる。

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP5. 計画・立案力

学校園等の教育現場が抱える道徳教育上の問題を理解することができる。

学生相互で意見を交流し合いながら、実践課題を形成することができる。

### 学外連携学修

有り（連携先：未定）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習（PBL）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

- 成績評価方法：実践フィールド研究の発表内容
- ・すぐれた授業実践もしくはすぐれた教師を志向しているかどうか。
  - ・策定した実践課題と実施した取り組みや授業実践および成果発表に一貫性があるかどうか。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

実践課題の現実性	30%	：自身の実践経験をバイアスを持たずに、反省的思考を展開させているかどうか。
レポート	20%	：観察した教育実践の立場に立って、現実的な意見を筋道立てて論述できているかどうか。
授業づくりと授業実践	20%	：試作した授業案に現実性があるかどうか。自身の実践課題と関連しているかどうか。
成果発表	30%	：簡約的思考を伴ってプレゼンテーションが行えたかどうか。質疑応答が誠実に行うことができたかどうか。

### 使用教科書

#### 指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	・ 廣済堂あかつき	・ 2017年
文部科学省	・ 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	・ 教育出版	・ 2017年
文部科学省	・ 生徒指導提要	・ 教育図書	・ 2010年

### 参考文献等

- ・授業の中で参考となる資料を配布する。
- ・課題の策定、解決に向けて参考となる資料、文献を紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 自由に来てください。  
場所： 研究室

### 授業計画

第1回	オリエンテーション（授業科目の趣旨と到達目標の説明を受ける）	学校等における道徳教育の課題について考えること。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	--------------------------------	--------------------------	-------------------------

	<p>本時は、この授業科目の内容についてガイダンスする。すなわち、学校における道德教育の観察や地域の教育施設や学校園等のボランティアあるいはインターンシップを通して、自身の実践課題を追求するとともに、その実践課題の解決を道德教育の充実に向けて具現化させていくことを理解する。</p>		
第2回	<p><b>自己の実践課題の発掘（何が問題か？）</b></p> <p>本時は、道德教育の充実に向けた自身の課題を考及し・論議する。 （課題例）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに見る道德性の課題</li> <li>・家庭や地域における道德教育の課題</li> <li>・学校における道德教育の課題</li> <li>・「特別の教科 道德」の実施、充実に向けた課題 等</li> </ul>	<p>他者の課題意識と比較しつつ、道德教育についての自身の実践課題を深めること。</p>	4時間
第3回	<p><b>自己の実践課題の具現化（何を問題にしなければならないのか？）</b></p> <p>本時は、策定した自身の実践課題を解決するためには、どのような取り組みをすべきかについて考及し、論議する。</p>	<p>自身が考えた取り組みの方向について検討すること。そのための解決方途を学習指導要領から手がかりを得ること。</p>	4時間
第4回	<p><b>自己の実践課題の解決に関する思索（自己の実践課題の解決を教育方法的に接近する）</b></p> <p>本時は、学習指導要領が示す教育課程の改善について論議し、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の充実・改善について</li> <li>・「特別の教科 道德」の充実・実施について</li> <li>・「特別の教科 道德」の授業改善・充実について</li> </ul> <p>等に関して、自身の実践課題を明確にする。</p>	<p>自身の実践課題のもつ意義を深めるために、自身の実践課題に関連する文献を収集し、講読すること。</p>	4時間
第5回	<p><b>協力校園でのインターンシップ（1）（小学校・幼稚園・保育所）（自己の実践課題に応じた学校観察および授業観察を行う）</b></p> <p>本時は、学校の道德教育に関する取り組みを観察・調査し、自身の実践課題との関連性を観察し、その現実性を考及する。</p>	<p>学校の取り組みを自身の実践課題と照らし合わせて、観察・調査した道德教育の取り組みについての改善案を考え、レポートにまとめること。</p>	4時間
第6回	<p><b>小学校・幼稚園・保育所での学校観察の振り返りと省察（協力校園の教員と意見交流し、実践課題との関連性を考える）</b></p> <p>本時は、観察した学校の道德教育推進教師や校長と面談し、その学校の道德教育の課題について拝聴する。これに伴い、自身の実践課題との関連性を考え、実践課題の現実性を高める。</p>	<p>自身の実践課題と照らし合わせて、課題の明確化を図るとともに、改善案を具体化する。</p>	4時間
第7回	<p><b>協力校園でのインターンシップ（2）（小学校・幼稚園・保育所）（自己の実践課題に応じた学校観察および授業観察を行う）</b></p> <p>本時は、学校の道德教育に関する取り組みを観察・調査し、自身の実践課題との関連性を観察し、その現実性を考及する。</p>	<p>学校の取り組みを自身の実践課題と照らし合わせて、観察・調査した道德教育の取り組みについての改善案を考え、レポートにまとめること。</p>	4時間
第8回	<p><b>地域の教育施設観察の振り返りと省察（協力施設の教職員と意見交流し実践課題を措定する）</b></p> <p>本時は、観察した学校の道德教育推進教師や校長と面談し、その学校の道德教育の課題について拝聴する。これに伴い、自身の実践課題との関連性を考え、実践課題の現実性を高める。</p>	<p>自身の実践課題と照らし合わせて、課題の明確化を図るとともに、改善案を具体化すること。</p>	4時間
第9回	<p><b>地域・学校園の教育課題に応える（1）課題の探究</b></p> <p>本時は、自身の実践課題を道德教育の改善につなげ具現化させる。この時間では、①道德教育の充実 ②特別の教科道德充実 ③特別の教科道德の授業改善等について、取り組みの計画を策定する。</p>	<p>選定した課題及び改善策について、取り組みの計画を策定すること。</p>	4時間
第10回	<p><b>地域・学校園の教育課題に応える（2）構想</b></p> <p>本時は、前時に引き続き自身の実践課題を道德教育の改善につなげ具現化させる。この時間では、（具現化例）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①道德教育の全体計画の具現化</li> <li>②特別の教科道德充実のための年間指導計画や手立ての具現化</li> <li>③特別の教科道德の授業改善の具現化</li> </ul> <p>等について、改善案を策定する。</p>	<p>実践課題に基づく改善案を作成すること。</p>	4時間
第11回	<p><b>地域・学校園の教育課題に応える（3）構想の構築</b></p> <p>本時は、具現化した改善案をまとめて、指導計画案として整理し、プレゼンテーションの準備を行う。</p>	<p>プレゼンテーションを練習しておくこと。</p>	4時間
第12回	<p><b>実践課題に応ずる構想発表（1）協力校園からの指導</b></p> <p>本時は、学校のける道德教育充実のための取り組み（案）について説明し、各学校の担当教員からの指導と助言を受ける。</p>	<p>担当教員から受けた指導と助言の内容を直ちに取り組み（案）に反映させること。</p>	4時間
第13回	<p><b>実践課題に応ずる構想発表（2）地域の教育施設からの指導</b></p> <p>本時は、学校のける道德教育充実のための取り組み（案）について説明し、各学校の担当教員からの指導と助言を受ける。</p>	<p>担当教員から受けた指導と助言の内容を直ちに取り組み（案）に反映させること。</p>	4時間
第14回	<p><b>「地域・学校実践フィールド研究」フォーラムへの準備（実践課題に応ずる授業実践の発表の内容と方法を準備する）</b></p> <p>本時は、学校で指導・助言を受けたことを踏まえつつ、全体会での自身の実践課題とその解決方途に関するプレゼンテーションをパワーポイントを用いて作成する。</p>	<p>プレゼンテーションの練習は各自で行っておくこと。</p>	4時間
第15回	<p><b>「地域・学校実践フィールド研究」フォーラム（実践課題に応ずる実践構想を発表する）試験</b></p> <p>本時は、学校における道德教育の改善に向けた自身の実践課題とその解決方途に関する発表を行う。</p>	<p>仲間のプレゼンテーションをふり返り、自身の実践課題の設定とその解決法について、再度、思索しておくこと。</p>	4時間

授業科目名	<b>地域・学校実践演習Ⅱ</b>				
担当教員名	米田薫				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校教諭として14年間勤務の後、教育委員会指導主事として教育相談を7年間担当した。その後、公立中学校スクールカウンセラーを続けている。【全15回】				

### 授業概要

本授業は、我が国の教育が直面する不登校・いじめ・子育て不安等の今日的教育課題を、学校や家庭、地域を包括的に捉える視点からの解決をめざし、とりわけ、心理教育が担う役割や具体的方策を中心に、理論的、実践的に検討する。子どもや保護者、子どもの支援に関わる人々を対象とする心理教育を実践するためにカウンセリング心理学の理論やスキルを習得し、生徒指導・教育相談に係る力量や家庭・地域教育支援に関する資質の向上を図り、教員や保護者等への適切な支援・助言ができる力量を習得する。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b> 1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	<b>具体的内容：</b> 子どもや教員・保護者等への適切な支援・助言ができる力量を身につける。	<b>目標：</b> 子どもや教員・保護者等を支援する理論とスキルの習得
<b>汎用的な力</b> 1. DP8. 意思疎通		受講者の得た知見や体験を対話を通じて共有し、新たな知を創造する一助とする。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

<b>成績評価の方法・評価の割合</b>	<b>評価の基準</b>
レポート・課題ワークシート	： 本科目で取り上げる課題について、経験や先行研究に基づく現状分析と、授業を通じての今後の展望についての考察を評価する。 60%
プレゼンテーション	： 担当した課題に関するプレゼンテーションと、それに用いた資料によって評価する。 40%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

- ・上地安昭編著『教師カウンセラー実践ハンドブック』金子書房 2010年 ISBN 9784760823581
  - ・山崎勝之・戸田有一・渡辺弥生編著『世界の学校予防教育』金子書房 2013年 ISBN 9784760888016
  - ・文部科学省『生徒指導提要』教育図書 2010年 ISBN 9784877302740
- 他は、授業中に紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：  
場所： 中央館5階127研究室

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>地域と学校における子どもたちの現状と背景</b> 地域と学校における子どもたちの現状と背景（ライフサイクル、ネット社会、準拠集団の変容、「やさしさ」の変容、反抗期が無い子どもたち等）を読み解く。	地域・学校実践演習Ⅰの復習 4時間
第2回	<b>教育環境としての学校の課題と現状</b> いじめ、不登校・中退、学級の「荒れ」、体罰、非行、学校不信、生徒指導提要、「チーム学校」、多文化共生、PTA、学童保育・放課後子ども教室等の教育環境としての学校の課題と現状と課題を整理する。	本時の復習と次時の予習レポートの作成 4時間
第3回	<b>教育環境としての地域の現状と課題</b> 社会構造の変化、格差社会、地域コミュニティの変容、子どもの貧困、児童虐待、子育て支援、社会教育、児童福祉施設等、教育環境としての地域の現状と課題を考察する。	本時の復習と次時の予習レポートの作成 4時間
第4回	<b>学校と地域の協働</b> 学校運営協議会、郷土教育、地域スポーツクラブ、文化活動、山村留学、ボランティア活動、NPO・行政機関の地域包括型支援、学社連携、社会的包摂等、学校と地域の協働のあり方を考察する。	本時の復習と次時の予習レポートの作成 4時間
第5回	<b>地域教育の創造と学級・学校づくりに生かす心理教育</b>	本時の復習と次時の予習レポートの作成 4時間

	地域教育の創造と学級・学校づくりに生かす心理教育とは何かを整理する。		
第6回	<b>心理教育の実際 (1)</b> 子どもの生活の基盤となる集団における人間関係づくりの促進のあり方を学ぶ。	本時の復習と次時の模擬実践の準備	4時間
第7回	<b>心理教育の実際 (2)</b> 子育てや生徒指導の基本となる接し方を学ぶ。	本時の復習と課題レポートの作成	4時間
第8回	<b>心理教育の実際 (3)</b> 子どもの社会性や道徳性の育成を伸長する心理教育を学ぶ。	本時の復習と次時の模擬実践の準備	4時間
第9回	<b>子ども向け心理教育プログラムの作成 (1)</b> 子ども向け心理教育プログラムの全体計画、アセスメントと評価計画を作成する。	本時の復習と課題レポートの作成	4時間
第10回	<b>子ども向け心理教育プログラムの作成 (2)</b> 子ども向け心理教育プログラムの指導プランを作成する。	本時の復習と次時の模擬実践の準備	4時間
第11回	<b>子ども向け心理教育プログラムの模擬実践</b> 子ども向け心理教育プログラムの模擬授業を実施する。	本時の復習と次時の予習レポートの作成	4時間
第12回	<b>子ども向け心理教育の実践 (1)</b> 子ども向け心理教育を実施している授業の見学、または授業録画を視聴する。	本時の復習と課題レポートの作成	4時間
第13回	<b>子ども向け心理教育の実践 (2)</b> 子ども向け心理教育の授業実践について検討する。	本時の復習と課題レポートの作成	4時間
第14回	<b>子ども向け心理教育の実践 (3)</b> 子ども向け心理教育の実践全般を包括的に検討する。	本時の復習と総括プレゼンテーションの準備	4時間
第15回	<b>まとめ</b> 成果と課題のプレゼンテーションを行う。	本科目の総復習	4時間

授業科目名	<b>現代教育実践学 I</b>				
担当教員名	山本智也				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	家庭裁判所調査官として心理学、社会福祉学、教育学などの専門的な知識や技法を活用し、家庭内の問題の解決や非行少年の立ち直りに向けた「調査」や「調整」を担当。（全15回）				

### 授業概要

臨床教育学の基本的な研究上の課題と視点を示した上で、個から普遍へ方向性を持ち、現実から出発し、具体的な問題解決を志向する臨床教育学の視座が現代の教育実践において、どのような意味をなすものなのかを考究する。具体的には、様々な課題を持った子どもの育ちに関わる実践、特に非行などの課題をもった子どもへの関わりに焦点をあて、そこでの支援実践事例をもとに、「個と個が関わりあう関係」に着目していくアプローチについて理解を深めていく。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	個から普遍へ、子どもの育ち、支援実践をとらえる視点。	臨床教育学の視点を具体的に理解することができる。
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		「個と個が関わりあう関係」に着目した支援ができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業におけるテーマ別発表とディスカッション	60% ： 事前学修の準備内容を踏まえた発表・討論への参加を総合的に評価する。
レポート	40% ： 授業で理解した内容と自らの実践とを関連づけて、「個と個が関わりあう関係」に着目した教育の在り方についての考察を総合的に評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

河合隼雄『臨床教育学入門』岩波書店 1995年  
 バイステック, F.P./尾崎 新訳『ケースワークの原則—援助関係を形成する技法』新訳改訂版 誠信書房、2006年  
 ガーゲン, K./東村知子訳『あなたへの社会構成主義』ナカニシヤ出版、2004年  
 小林 剛・皇紀夫・田中孝彦編『臨床教育学序説』柏書房、2002年  
 日本家族心理学会編『学校臨床における家族への支援』金子書房、2001年  
 皇 紀夫編『臨床教育学の生成』玉川大学出版、2003年  
 山本智也『非行臨床から家庭教育支援へ』ナカニシヤ出版、2005年

### 履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められ、各授業回あたり4時間の授業外学修が必要である。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	
場所：	中央館2階個人研究室79
備考・注意事項：	備考・注意事項： 授業外での質問の方法 質問は授業の前後も答えるが、Eメールでも対応する。 メールアドレス：yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp ただし、件名に「現代教育実践学 I：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

### 授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>臨床教育学とは何か</b>  臨床教育学という学問領域が創出されるに至った状況認識等を概括します。	4時間
第2回	<b>臨床教育学と人間関係諸科学との関連</b>  教育学・心理学・社会福祉学との関連を取り上げ、臨床教育学の学際性・実践性について理解を深めます。	4時間
第3回	<b>臨床教育学における人間観・方法論</b>  個から普遍へ方向性を持ち、現実から出発し、具体的な問題解決を志向するという臨床教育学の人間観・方法論について理解を深めます。	4時間

第4回	<p><b>子どもの育ちをめぐる動向と課題(1) 子どもの問題行動を中心に</b></p> <p>子どもの問題行動を中心として、様々な課題を持った子どもの育ちに関わる実践を考えていきます。</p>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第5回	<p><b>子どもの育ちをめぐる動向と課題(2) 少子化社会における子どもの育ちを中心として</b></p> <p>少子化社会における子どもの育ちを中心として、現代社会と子育て・子育ての状況について考えていきます。</p>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第6回	<p><b>子どもの育ちに関わる支援実践をとらえる視点(1) 支援者としての基本的態度</b></p> <p>「個と個が関わりあう関係」に焦点をあてた支援者としての基本的態度について理解を深めます。</p>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第7回	<p><b>子どもの育ちに関わる支援実践をとらえる視点(2) ハーシの社会的絆理論</b></p> <p>ハーシの社会的絆理論を取り上げ、子どもの育ちに関わる支援実践をとらえる視点について理解を深めます。</p>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第8回	<p><b>子どもの育ちに関わる支援実践をとらえる視点(3) フレイレの課題提起型教育</b></p> <p>フレイレの課題提起型教育を取り上げ、子どもの育ちに関わる支援実践をとらえる視点について理解を深めます。</p>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第9回	<p><b>子どもの育ちに関わる支援実践をとらえる視点(4) ストレングス・モデル</b></p> <p>健康な面に着目するというストレングス・モデルを取り上げ、子どもの育ちに関わる支援実践をとらえる視点について理解を深めます。</p>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第10回	<p><b>子どもの育ちに関わる支援実践をとらえる視点(5) ユースワークの視点</b></p> <p>若者の自立を支援するユースワークを取り上げ、子どもの育ちに関わる支援実践をとらえる視点について理解を深めます。</p>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第11回	<p><b>子どもの育ちに関わる支援実践をとらえる視点(6) 解決に焦点を当てたアプローチ</b></p> <p>問題に焦点をあてるのではなく、解決に焦点をあてるというシズテムズ・アプローチを取り上げ、子どもの育ちに関わる支援実践をとらえる視点について理解を深めます。</p>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第12回	<p><b>子どもの育ちに関わる支援実践事例の検討(1) 子どもと学校との関係をめぐって</b></p> <p>受講生からの事例提供を踏まえて、子どもと学校との関係をめぐる実践について検討していきます。</p>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第13回	<p><b>子どもの育ちに関わる支援実践事例の検討(2) 子どもと家族との関係をめぐって</b></p> <p>受講生からの事例提供を踏まえて、子どもと家族との関係をめぐる実践について検討していきます。</p>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第14回	<p><b>子どもの育ちに関わる支援実践事例の検討(3) 子どもをめぐる関係機関の連携をめぐって</b></p> <p>受講生からの事例提供を踏まえて、子どもをめぐる関係機関の連携をめぐる実践について検討していきます。</p>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第15回	<p><b>ヒューマンサービスとしての臨床教育学の方向性</b></p> <p>ヒューマンサービス：対人援助という概念のもとに多様な学問領域を統合していこうとする動きを踏まえて、今後の臨床教育学の方向性を検討していきます。</p>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間

授業科目名	<b>現代教育実践学Ⅲ</b>				
担当教員名	羽野ゆつ子				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

### 授業概要

主体的で協働的な学習や深い学習、創造的問題解決力の育成など、学習観が転換する現代の教育実践をとらえる視座を得ることを目的とする。被教育者の発達と学習を中心とする教育心理学研究、教師をはじめ教育者の発達と学習に関する教育心理学研究を解題する。被教育者と教育者の両面からの考察により、関係論的な視点から教育という営みをとらえ直す。さらに、教育心理学の知見を具体的な教育実践の事例と照らしながら検討し、実践と研究の構想につなぐ機会とする。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

発達と学習を中心とした、現代の教育心理学の知見の理解

#### 目標：

教育心理学研究を批判的に吟味するとともに、教育心理学の知見をもとに教育実践を省察する。

#### 汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力

教育心理学の専門知識と実践の省察と構想

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合

平常点

50%

#### 評価の基準

： 事前学修の準備内容と討論への参加を総合的に評価する。

レポート

50%

： 実践事例と理論の省察性と、実践の構想力を総合して評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

子安増生・楠見孝・齊藤智・野村理朗編著 『教育認知心理学の展望』ナカニシヤ出版 2016年  
金井壽宏・楠見孝編著 『実践知-エキスパートの知性』 有斐閣 2012年

### 履修上の注意・備考・メッセージ

特になし。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後に応じる。

場所： 教室または研究室（中央館2階研究室80）

### 授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>学校教育と教育心理学</b> 現代の学校教育の課題について、教育心理学と結びつけて考え、現代の教育心理学を学ぶ意味を考えます。	4時間
第2回	<b>遺伝と環境</b> 巻物を広げるという意味の「発達（development）」について、遺伝と環境についての教育心理学研究から検討します。	4時間
第3回	<b>社会的認知の発達と進化</b> ヒトらしい発達とは？ ヒトとチンパンジーを比較する、比較認知発達心理学研究の成果から、ヒトらしさ、ヒトらしい発達について考えます。	4時間
第4回	<b>知能</b> IQからEQ、多重知能理論へ、知能研究の変遷をたどりながら、現代の学校教育における知能観を省察します。	4時間
第5回	<b>身体と認知</b> 考えることは、頭で行うこと＝身体を使わなくなることなのか、思考に果たす身体の役割についての心理学研究に照らし、学習観や教育観を省察します。	4時間
第6回	<b>言語と思考</b> メタファーやアナロジーを中心に、創造性や問題解決の思考に関する心理学研究に照らして、子どもの思考について考えます。	4時間
第7回	<b>メタ認知と批判的思考</b>	4時間

	コンピテンシーの中核である反省性（リフレクシビリティ）について、心理学のメタ認知や批判的思考に関する研究から考えます。		
第8回	<b>構成主義の発達と学習</b> 能動性、環境との相互作用を重視する構成主義の発達と学習研究について検討します。	次回の予習を行う。（文献の講読とレジユメの作成）	4時間
第9回	<b>社会的構成主義の発達と学習</b> 協同性を重視する社会的構成主義の発達と学習研究について検討します。	次回の予習を行う。（文献の講読とレジユメの作成）	4時間
第10回	<b>活動主義の発達と学習</b> 関係性の視点から発達と学習を考える、活動主義の研究について検討します。	次回の予習を行う。（文献の講読とレジユメの作成）	4時間
第11回	<b>教師の熟達化</b> 教師は、実践をとおして、どのようにわざを磨くのか。わざとは何か。教師の発達について考えます。	次回の予習を行う。（文献の講読とレジユメの作成）	4時間
第12回	<b>実践知と実践的思考</b> 実践の中での実践者の知識と思考について、心理学研究に照らして考えます。	次回の予習を行う。（文献の講読とレジユメの作成）	4時間
第13回	<b>現代教育実践の事例研究（1） 授業の省察（リフレクション）とケース・メソッド</b> 授業という営み＝ケース（事例）を省察しながら、実践を創造し、学んでいく教師の思考について考えます。	次回の予習を行う。（文献の講読とレジユメの作成）	4時間
第14回	<b>現代教育実践の事例研究（2） 教科の授業を事例に</b> 受講者の関心に照らして、事例を選択し、その事例を協同で省察します。	次回の予習を行う。（文献の講読とレジユメの作成）	4時間
第15回	<b>現代教育実践の事例研究（3） 総合学習を事例に</b> 受講者の関心に照らして、事例を選択し、その事例を協同で省察します。	最終レポートの作成	4時間



授業科目名	<b>現代教育実践学Ⅳ</b>				
担当教員名	三村寛一				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

### 授業概要

体の発育・発達には多くの要因によって変化し、一生涯の健康にも大きな影響を与える。また現在の子どもを取り巻く生活環境の変化から、予防医学的見地からの健康課題も多く多様な研究報告がなされているが、子どもに関する報告が少ないのが現状である。そこで本科目では子どもの各年齢段階における発育発達を科学的根拠を基に解説すると共に子どもの発育・発達問題等に関する調査データを読み解きながら進めていく。さらに教育・福祉分野で実際に実施されている安全強化的な体の測定方法を修得する。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

ヒトの体の発育発達に関する学習をし、基礎的知識を身につけると共に各年齢段階で必要とされる運動・生活習慣を理解する。

#### 目標：

体の発育・発達と運動及び健康との関係を理解する。

#### 汎用的な力

- DP6. 行動・実践

体の発育発達を知る事により、教育現場で個々にあった適切・安全な指導が出来る。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合

テーマ毎に測定評価し、レポート提出  
60%

#### 評価の基準

：事前学修の準備内容を踏まえ、テーマごとに測定評価し、提出したレポートを総合的に評価する。

授業への取り組みや態度

40%

：事前学修、授業中に於けるグループ学習、発表等を総合的に評価する。

### 使用教科書

指定する

#### 著者

三村寛一

#### タイトル

・健康スポーツの科学

#### 出版社

・嵯峨野書院

#### 出版年

・2006年

### 参考文献等

三村寛一・安部恵子編著 新保育と健康 嵯峨野書院 2018年

藤本繁夫、大久保衛、岡田邦夫編著 やさしいスポーツ医科学の基礎知識 嵯峨野書院 2017年

三村寛一著 スポーツと法 嵯峨野書院 2011年

### 履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められ、各授業回あたり4時間の授業外学修が必要である。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業初回に連絡する。

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション</b>  授業計画、履修上の注意、評価の方法等の説明	4時間
第2回	<b>発育発達と運動</b>  発育発達とは？生命の誕生から20歳の成人式まで、発育発達・老化と運動の関係等について学習し、レポートにまとめる。	4時間
第3回	<b>体格の発育</b>  各自の身長、体重、胸囲を測定し、評価する。文献、資料を基に0歳から20歳における男女の身長、体重、胸囲の発育について学習し、レポートにまとめる。	4時間

第4回	<b>骨・筋の発育発達</b>  各自の骨密度、筋力を装置を使って測定し、評価する。文献に資料を基に3歳から80歳における男女の骨密度、筋力の発育・老化について学習し、レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第5回	<b>体力・運動能力の発育発達</b>  各自の体力・運動能力を器具を使って測定し、評価する。文献に資料を基に3歳から80歳における男女の体力・運動能力の発育・老化について学習し、レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第6回	<b>神経系の発達</b>  各自の心拍数、体温、ストレス度を装置を使って測定し、評価する。文献に資料を基に3歳から80歳における男女の心拍数、体温、ストレス度の発育・老化について学習し、レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第7回	<b>活動量の発達</b>  各自の心拍数、歩数、運動量を装置を使って測定し、評価する。文献に資料を基に3歳から80歳における男女の心拍数、歩数、運動量の発育・老化について学習し、レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第8回	<b>脳の発達と運動</b>  文献・資料を基に0歳から20歳における脳の発達と運動について学習し、レポートにまとめる	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第9回	<b>呼吸循環器系の発達</b>  各自の肺活量、血圧、心拍数を器具を使って測定し、評価する。文献に資料を基に3歳から80歳における男女の肺活量、血圧、心拍数、酸素摂取量の発育・老化について学習し、レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第10回	<b>こころの発達</b>  文献・資料を基にこころとは？ 0歳から20歳におけるこころの発達と運動について学習し、レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第11回	<b>社会性の発達</b>  文献・資料を基に社会性とは？ 0歳から20歳における社会性の発達と運動について学習し、レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第12回	<b>栄養と発育発達</b>  文献・資料を基に0歳から20歳における食生活の変化と運動について学習し、レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第13回	<b>運動・栄養・休養</b>  文献・資料を基に0歳から20歳における運動・栄養・休養について学習し、レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第14回	<b>発育発達期に多い怪我や病気</b>  文献・資料を基に0歳から20歳における怪我や病気について学習し、レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第15回	<b>年齢段階に応じた運動指導</b>  文献・資料を基に0歳から20歳における発育発達に適切な運動指導について学習し、レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間

授業科目名	<b>現代教育実践学Ⅴ</b>				
担当教員名	鈴木勇				
学年・コース等	1年・2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義が中心となりますが、グループ討議や発表なども取り入れます。				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

### 授業概要

今日の教育をめぐる諸問題について、教育社会学の視点から検討する。教育社会学では、教育事象を広く社会とのかかわりの中でとらえ、その意味を考察するため、扱うテーマは多岐にわたり、例えば、近代学校制度、教師集団、学力問題、市民社会、教育改革などが挙げられる。本科目では、最初に、教育社会学における基本的な考え方について学んだ後、これらの教育テーマについて検討し、教育者としての幅広い視野と知識を身に付けることをめざす。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

教育社会学に関する知識。

#### 目標：

教育社会学の考え方を身に付け、今日の教育問題についての現状と課題を、多角的な視点から理解したうえで、自らの見解を示すことができる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

教育に関する課題を発見することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

授業で扱った教育社会学にかかわる教育テーマについて正しく理解し、自らの見解を説得的に示すことができる点を評価する。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

試験

70%

授業で示す課題

30%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

文部科学省「幼稚園教育要領」文部科学省、2008年  
文部科学省「小学校学習指導要領」文部科学省、2008年

### 履修上の注意・備考・メッセージ

授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業でお知らせします。

場所： 中央館5階研究室

### 授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>教育社会学の考え方①：教育社会学の誕生</b>  教育社会学の歴史を振り返り、教育社会学が誕生した背景について検討する。	4時間
第2回	<b>教育社会学の考え方②：教育社会学の理論</b>  教育社会学の歴史を振り返り、代表的な理論について検討する。	4時間
第3回	<b>教育社会学の考え方③：教育社会学の今日的テーマ</b>  教育社会学の歴史を振り返り、今日課題となっているテーマや今後の展開について検討する。	4時間
第4回	<b>近代学校という制度</b>  近代において学校制度が誕生した歴史やその機能について検討する。	4時間
第5回	<b>地域社会と教育</b>  教育と地域社会のかかわりについて検討する。	4時間
第6回	<b>教師と生徒の関係</b>  授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間

	日本における教師と生徒の関係の特徴について検討する。		
第7回	<b>グローバル化と教育</b>  グローバル化が進む今日の教育の現状について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第8回	<b>市民社会と教育</b>  市民教育の歴史・現状と課題について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第9回	<b>世界の学力政策</b>  諸外国の学力政策について新自由主義との関係から検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第10回	<b>教育における選抜と排除</b>  教育がもたらす選抜と排除の機能について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第11回	<b>教育格差と再生産</b>  教育格差の現状と再生産の仕組みについて検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第12回	<b>教育格差と社会関係資本</b>  教育格差の再生産において社会関係資本が果たす役割について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第13回	<b>教育格差是正への試み</b>  教育格差是正の可能性について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第14回	<b>教育改革と学校</b>  今日の教育改革の特徴と展開について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第15回	<b>これからの学校教育</b>  学校教育の可能性を教育社会学の視点から検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間

授業科目名	<b>研究方法論 I</b>				
担当教員名	鈴木勇・藪田直子				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

### 授業概要

教育学研究に必要な方法論や研究事例を学び、教育学研究を行うために必要な知識や技能を身につける。具体的には 教育・保育を多角的に分析するための視点や方法を修得するために、質的及び量的アプローチによる研究の手法を学ぶことが目的である。とりわけ本論では、社会調査法に依拠しつつ、エスノグラフィーの技法や、統計解析を用いた数量データの分析方法について学習した上で、それぞれの研究をデザインできる力の獲得を目指す。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b>	<b>具体的内容：</b>	<b>目標：</b>
1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	研究方法	教育学研究を行うために、質的調査法を用いた研究をデザインすることができる。
<b>汎用的な力</b>		
1 . DP5. 計画・立案力		研究方法を理解し、自らの問題と関連付けてデザインすることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として、規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内で示す課題	40%	： 質的調査法の方法論を踏まえ、フィールドワークやインタビューを的確に実施・分析し、他者にその成果を効果的に伝えることができているかどうか。
期末レポート	60%	： 質的調査法の方法論を踏まえ、フィールドワークやインタビューを的確に実施・分析し、他者にその成果を効果的に文章化することができているかどうか。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
野村康	・ 社会科学の考え方	・ 名古屋大学出版会	・ 2017年

### 参考文献等

志水宏吉編『教育のエスノグラフィー』嵯峨野書院、1998年  
 佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002年  
 O' Reilly Karen『Ethnographic Methods (second edition)』Routledge、2012年  
 藤田結子・北村文編『現代エスノグラフィー』新曜社、2013年  
 岸政彦・石岡文昇・丸山里美『質的社会調査の方法』有斐閣ストゥディア、2016年

### 履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められ、各授業回あたり4時間の授業外学修が必要である。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	中央館5階研究室

### 授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>教育研究における質的研究</b>  講義の流れと成績評価について説明した後、教育研究における質的研究について、その歴史的な文脈や現在の社会科学界における位置づけについて学ぶ。	4時間
第2回	<b>質的調査法（1）：方法論</b>  質的調査法について、多様な方法論及び理論的背景を学ぶ。	4時間
第3回	<b>質的調査法（2）：フィールドワーク</b>  質的調査法について、「フィールドワーク」を取り上げ、その技法及び方法論を学ぶ。	4時間
第4回	<b>質的調査法（3）：参与観察</b>  質的調査法について、「参与観察法」を取り上げ、その技法及び方法論を学ぶ。	4時間
第5回	<b>質的調査法（4）：インタビュー</b>  インタビュー法を用いた教育研究を読み、方法論についての理解を深める。	4時間

	質的調査法について、「インタビュー法」を取り上げ、その技法及び方法論を学ぶ。		
第6回	<b>フィールドワーク演習（1）：研究テーマの設定</b> フィールドワークを実施するために研究テーマを設定し、研究計画を立てる。	研究計画を精緻化し、フィールドワークに備える。	4時間
第7回	<b>フィールドワーク演習（2）：調査の実施</b> 研究計画に基づき、各自フィールドワークを実施する。	フィールドワークを実施し、得られたデータをまとめておく。	4時間
第8回	<b>フィールドワーク演習（3）：データの整理と分析</b> フィールドワークで得られたデータを整理・分析する方法を学ぶ。また、実際に分析してみる。	授業に引き続き、フィールドデータの分析を行う。	4時間
第9回	<b>フィールドワーク演習（4）：分析結果の執筆</b> フィールドデータの分析結果を執筆する方法を学ぶ。また、実際に執筆を行う。	授業に引き続き、分析結果の執筆を行う。	4時間
第10回	<b>フィールドワーク演習（5）：分析結果の発表</b> フィールドワークの結果を発表し、自らの調査結果を他者にシェアする。また、各調査結果について、授業メンバーでディスカッションを行う。	各自で発表・ディスカッションを振り返り、課題を整理する。	4時間
第11回	<b>インタビュー演習（1）：研究テーマの設定</b> インタビュー調査を実施するために研究テーマを設定し、研究計画を立てる。	研究計画を精緻化し、インタビューに備える。	4時間
第12回	<b>インタビュー演習（2）：調査の実施</b> 研究計画に基づき、各自インタビュー調査を実施する。	インタビュー調査を実施し、得られたデータをまとめておく。	4時間
第13回	<b>インタビュー演習（3）：データの整理と分析</b> インタビュー調査で得られたデータを整理・分析する方法を学ぶ。また、実際に分析してみる。	授業に引き続き、インタビューデータの分析を行う。	4時間
第14回	<b>インタビュー演習（4）：分析結果の執筆</b> インタビューデータの分析結果を執筆する方法を学ぶ。また、実際に執筆を行う。	授業に引き続き、分析結果の執筆を行う。	4時間
第15回	<b>インタビュー演習（5）：分析結果の発表</b> インタビュー調査の結果を発表し、自らの調査結果を他者にシェアする。また、各調査結果について、授業メンバーでディスカッションを行う。	各自で発表・ディスカッションを振り返り、課題を整理する。	4時間

授業科目名	<b>研究方法論Ⅱ</b>				
担当教員名	松坂崇久				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

### 授業概要

教育学研究に必要な方法論や研究事例を学び、教育学研究を行うために必要な知識や技能を身につける。具体的には、教育・保育を多角的に分析するための視点や方法を修得するために、質的及び量的アプローチによる研究の手法を学ぶことが目的である。とりわけ本論では、心理学的な観点から、観察法、面接法、質問紙調査法、実験法などの各方法論の実証性と限界について理解した上で、研究課題の定め方、研究計画の立て方、研究手法の選び方、分析方法などについての学びを深めることを目的としている。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b>	<b>具体的内容：</b>	<b>目標：</b>
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育学の研究方法を理解する。	教育学研究に必要な方法論や研究事例を学び、教育学研究を行うために必要な知識や技能を身につける。
<b>汎用的な力</b>		
1 . DP4. 課題発見		修士論文のテーマと方法を見つける。
2 . DP5. 計画・立案力		修士論文の作成にむけた研究方法を理解し修得する。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

<b>成績評価の方法・評価の割合</b>	<b>評価の基準</b>
授業内課題 (5点×15回)	: 5～4点: 授業外学修を極めて丁寧に行い、演習に積極的に取り組み、構想や実践に大きく貢献している。3点: 授業外学修を丁寧に行い、演習に積極的に取んでいる。2～1点: 授業外学修をもとに、演習に参加している。
レポート	: 調査法について以下の5つの観点から評価する。①実施方法の理解、②目的にあわせた研究手法の選択、③目的にそった分析法の選択と実施、④統計解析の基本的理解、⑤研究倫理への配慮
	75%
	25%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

松井豊. 2016. 改訂新版. 心理学論文の書き方: 卒業論文や修士論文を書くために. 河出書房新社.  
高橋順一・渡辺文夫・大淵憲一(編著). 2015. 人間科学研究法ハンドブック第2版. ナカニシヤ出版.  
日本学術振興会(以下略). 2015. 科学の健全な発展のために: 誠実な科学者の心得. 丸善出版.

### 履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められ、各授業回あたり4時間の授業外学修が必要である。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 授業時間の前後  
場所: 授業教室  
備考・注意事項: その他連絡方法は、初回の授業で周知します。

### 授業計画

第1回	幼児・児童を理解するさまざまな方法	次回の予習: 研究倫理について	授業外学修課題にかかる目安の時間
	観察法、質問紙法、面接法などの研究調査と分析法を概観する。		4時間
第2回	<b>教育と研究倫理</b> 研究実施段階における研究者の責務と倫理について理解を深め、具体的手続きについて理解する。	次回の予習: 観察法を用いた先行研究の講読	4時間
第3回	<b>観察法①: 観察法の種類と実際</b> 観察法を用いた先行研究を読み、その利点と限界を知る。	次回の予習: 観察法を用いたデータの収集	4時間
第4回	<b>観察法②: データ収集と分析</b> 観察法を用いた調査を行い、その分析方法について理解する。	次回の予習: 質問紙法を用いた先行研究の講読	4時間
第5回	<b>質問紙法①: 質問紙法の種類と実際</b> 質問紙法を用いた先行研究を読み、その利点と限界を知る。	次回の予習: 質問紙法を用いたデータの収集	4時間
第6回	<b>質問紙法②: データ収集と分析</b> 観察法を用いた調査を行い、その分析方法について理解する。	次回の予習: 面接法を用いた先行研究の講読	4時間
第7回	<b>面接法①: 面接法の種類と実際</b> 面接法を用いた先行研究を読み、その利点と限界を知る。	次回の予習: 面接法を用いたデータの収集	4時間

第8回	<b>面接法②：データ収集と分析</b> 面接法を用いた調査を行い、その分析方法について理解する。	次回の予習：実験法を用いた先行研究の講読	4時間
第9回	<b>実験法①：実験法の種類と実際</b> 実験法を用いた先行研究を読み、その利点と限界を知る。	次回の予習：実験法を用いたデータの収集	4時間
第10回	<b>実験法②：データ収集と分析</b> 実験法を用いた調査を行い、その分析方法について理解する。	調査法のまとめ	4時間
第11回	<b>統計の基礎①：変数と尺度</b> 名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比例尺度および量的変数における代表値の様々を学ぶ。	復習シートの作成：変数と尺度	4時間
第12回	<b>統計の基礎②：基本統計量とグラフ</b> 記述統計量、相関係数、正規分布、標準偏差と分散などを理解する。	復習シートの作成：基本統計量とグラフ	4時間
第13回	<b>統計の基礎③：パラメトリック検定</b> T検定、分散分析を中心に仮説検定の基本について学ぶ。	復習シートの作成：パラメトリック検定	4時間
第14回	<b>統計の基礎④：ノンパラメトリック検定</b> U検定や $\chi^2$ 乗検定など、比率の差の検定、独立性の検定の考え方を理解する。	復習シートの作成：ノンパラメトリック検定	4時間
第15回	<b>研究計画と研究方法の選択</b> 修士論文の研究計画を見直し、研究方法について、より具体的に考える。	まとめ：研究計画と研究方法	4時間



授業科目名	カリキュラム開発特論 I				
担当教員名	山本はるか				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

### 授業概要

本講義では、戦後日本における学力論争に即して登場した議論や学力構造・モデルについて、例えば広岡亮蔵や勝田守一の学力モデルや新学力観における冰山モデル等を歴史的に検討するとともに、現代における国際的な学力調査（PISA）等での学力観やリテラシー観について検討します。また学力問題は評価論とも密接に関わるため、評価を巡る議論について到達度評価の議論やパフォーマンス評価（真正の評価論）の議論も合わせて吟味していきます。これらの検討を踏まえて現在の進み行く教育改革を分析する知見を得ることを目標とします。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 汎用的な力

- DP5. 計画・立案力

#### 具体的内容：

- 戦後日本における学力論争の変遷や学力モデルの変遷について検討する。
- 学力構造に対応する評価論の変遷を理解する。

#### 目標：

- 戦後日本における学力論争の変遷や学力モデルの変遷について検討し、基本的な知見を得る。
- 学力構造に対応する評価論の変遷を理解し、現代に求められる学力評価のあり方について理解することができる。
- 現代に求められる学力評価計画について実践的に構想することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- 問答法・コメントを求める
- 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- 実習や実技に対して個別にコメントします
- 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

3分の2以上の出席があるものを評価の対象とする。

#### 成績評価の方法・評価の割合

定期試験（レポート）

#### 評価の基準

： 学力評価論の視点から先進的な実践を分析する課題において、個別の実践のみでなく、参考文献や他者の複数の意見、これまでの歴史的変遷等の視点を含め、あるいは対峙させたものをAとする。

60%

日常的評価

40%

： 参考文献や他者の複数の意見と対峙させううえで自身の見解を表明しているものをAとする。

### 使用教科書

#### 指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
西岡 加名恵, 石井 英真, 田中 耕・治編	新しい教育評価入門 ― 人を育てる評価のために	・ 有斐閣	・ 2015年

### 参考文献等

『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価 アクティブ・ラーニングをどう充実させるか』、西岡加名恵編著、2016年。  
そのほか、各回のテーマに応じて適宜紹介、活用する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

毎回の講義に対するふりかえりをもとに次の講義内容・討議内容を組み立てるため、シラバスの進度および扱う内容の順序については変更の可能性がります。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後  
場所： 個人研究室（本館5階132）

### 授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション</b> 学力とは何か、これまでにどのような議論があったのかを概観する。また、「リテラシー」の語義について考え、講義全体の課題意識を持つ。	4時間
第2回	<b>教育課程の変遷（1）戦後における生活経験主義：価値をどうやって教えるか</b> 生活経験主義における「学力」の捉え方や構造について、カリキュラムや実践をもとに検討する。	4時間
第3回	<b>教育課程の変遷（2）戦後における系統主義：教育の現代化からゆとり教育へ</b> 系統主義・学問中心主義における「学力」の捉え方や構造について、カリキュラムや実践をもとに検討する。	4時間

第4回	<b>学力モデルの検討（1）経験を中心としたモデル：広岡モデルの検討</b> 広岡亮蔵の学力モデル（三層四領域モデル）を扱い、このモデルによる広岡の主張とその背景、批判された点を踏まえて、現代的な意義や論点を検討する。	広岡モデルの意義、論点を整理する。	4時間
第5回	<b>学力モデルの検討（2）計測可能な学力：勝田モデルの検討</b> 勝田守一の学力モデルや「計測可能な学力」の考え方を扱い、このモデルによる勝田の主張とその背景、批判された点を踏まえて、現代的な意義や論点を検討する。 【ミニレポート】学力モデルの整理とあらたな提言	勝田モデルの意義、論点を整理する。	4時間
第6回	<b>教育評価の歴史（1）絶対評価法、相対評価法</b> 教育評価における絶対評価、相対評価を整理し、相対評価法が長く取り入れられたメリットおよび教育実践上のデメリットを検討する。	相対評価のデメリットを整理する。	4時間
第7回	<b>教育評価の歴史（2）到達目標・評価論の登場と目標に準拠した評価</b> 到達目標・評価論における論点（習熟をめぐる段階説、平行説など）を踏まえて、目標に準拠した評価の利点・課題を検討する。	目標・評価論における到達点・課題を整理する。	4時間
第8回	<b>現代の学力評価論（1）リテラシーの議論、PISA型読解力と新しい評価法</b> 現代の学力論について、「リテラシー」の議論をOECD/PISAの動向とともに検討する。 また、そこで必要となる新しい評価法についても触れる。	「リテラシー」の語義を整理する。	4時間
第9回	<b>現代の学力評価論（2）パフォーマンス評価をめぐる議論</b> 現代において注目される評価論について、主にポートフォリオ評価とパフォーマンス評価について紹介し、その利点および活用方法、課題について検討する。	パフォーマンス課題・評価の事例を探し、整理する。	4時間
第10回	<b>現代の学力評価論（3）ルーブリック作成から授業改善へ</b> パフォーマンス課題を紹介し、ルーブリック作成のワークを行う。またそれを踏まえて授業改善につなげる視点を整理する。 【ミニレポート】パフォーマンス課題とルーブリックの作成	特定のパフォーマンス課題を設定し、ルーブリックを作成する。	4時間
第11回	<b>現代の学力評価論（4）新しい能力、アクティブラーニングの議論、入試改革</b> アクティブ・ラーニングや「主体的対話的な深い学び」について、展開されている議論を整理する。また大学入試改革等の現状を把握する。	優れた実践や高校入試問題の特徴的なものを探してくる。	4時間
第12回	<b>リテラシーを問い直す実践分析（1）教科科目において</b> 教科科目において、パフォーマンス課題（評価）など、新しい取り組みを行っているすぐれた実践を紹介、議論する。	総合学習における優れた実践を探してくる。	4時間
第13回	<b>リテラシーを問い直す実践分析（2）総合的な領域において</b> 総合学習等の教科外の領域における、パフォーマンス課題など新しい取り組みを行っているすぐれた実践を紹介、議論する。	レポートを作成する。	4時間
第14回	<b>レポート交流会</b> 受講生の調べてきた優れた実践・評価のあり方をもとに、求められる「学力とリテラシー」、および「評価のあり方」について整理し、発表、議論する。	交流を踏まえてレポートを吟味しなおす。	4時間
第15回	<b>総括と質疑応答</b> 15回の議論の内容を整理し、ポートフォリオ化する。	レポートや学びの成果、レジュメ等を整理し、目次やまとめを作成する。	4時間

授業科目名	カリキュラム開発特論Ⅲ				
担当教員名	安部恵子				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

### 授業概要

子どもの学びの履歴としての体育科教育のカリキュラムを開発し実践できる力を育てるために、児童・生徒が主体的に取り組むための学習指導に焦点をあてて、カリキュラム開発のあり方について理解を深める。また、予防医学的見地からみた健康と身体について考察する。中でも本講義では、身体活動と健康、スポーツと健康の相関的・相乗的な関係の基本理念について、生理的・医学的な特徴と関係から概説する。また現代社会における子どもの身体に関する健康課題について、最新の科学的根拠を基に解説し、保育・教育現場で実践可能な解決法の

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	子どもの身体活動を医学的に理解できる	子どもの身体の機能と構造を理解できる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		予防医学的見地および科学的根拠を基に教育現場における課題とその要因を抽出できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

3分の2以上の出席があるものを評価の対象とする

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

問答法・コメントを求める	60%	： 参考文献および先行研究論文を基に考察、科学的根拠を基にした考察を行った上での問答法とする
課題レポート	40%	： テーマに関する参考文献および先行研究論文を基に考察、科学的根拠を基にした考察を行うこと

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

1. 出村慎一『幼児のからだを測る・知る・測定の留意点と正しい評価法』杏林書院
2. アメリカスポーツ医学会編『運動処方指針—運動負荷試験と運動プログラム—』南江堂
3. Stephen D. Daniels 「CPR training in school」 The journal of Pediatrics、2017.2
4. Denise N. Goodman 「Family health is child health」 The journal of Pediatrics、2017.2

### 履修上の注意・備考・メッセージ

毎回の講義における受講者の状況に応じて、シラバスの進捗および内容の順序を変更する場合があります。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	17時から21時
場所：	中央館2階7 2
備考・注意事項：	木曜日の17時～21時：研究室にて対応可能。もしくは、本授業受講生にメールアドレスを提示します。

### 授業計画

回数	授業内容	事前学習	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>子どもの身体の機能と構造について</b> 本講義の目当てと評価方法について解説後、子どもの身体の機能と構造について解説する。特に、成人との相違点を理解した上で、子どもの形態の経年変化と特性について解説する。	成人の身体の機能と構造について事前学習する。	4時間
第2回	<b>運動が子どもの体に及ぼす影響について（1）呼吸循環器系</b> 運動（身体活動）が子どもの体に及ぼす影響を解説する。特に、呼吸循環器機能、心拍数、心拍出量について理解し、成人との相違点と特性について解説する。	呼吸循環器機能について事前学習する	4時間
第3回	<b>運動が子どもの体に及ぼす影響について（2）エネルギー供給機構</b> 運動（身体活動）が子どもの体に及ぼす影響を解説する。特に、エネルギー供給機構について理解するとともに運動強度についても触れる。	エネルギー供給機構について事前学習する。	4時間
第4回	<b>運動が子どもの体に及ぼす影響について（3）小児肥満</b> 肥満の定義と評価基準及び方法について解説する。また小児肥満について、医学的根拠を基にその特性と成人との相違点について解説する。	肥満について事前学習する。	4時間
第5回	<b>子どもの身体活動について（1）予防医学的見地からの身体活動</b> 予防医学および身体活動の定義と測及び基準について解説する。また、現在の子どもを取り巻く社会背景を踏まえ、科学的根拠を基に課題を抽出しその要因について考察する。	予防医学について事前学習する（文献研究）。	4時間
第6回	<b>子どもの身体活動について（2）身体活動量の測定方法と意義</b>	身体活動について事前学習する。	4時間

	身体活動の定義と測定方法及び基準について解説する。また、現在の子どもを取り巻く社会背景を踏まえ、科学的根拠を基に身体活動の現状を把握する。		
第7回	<b>子どもの身体活動について</b> (3) <b>子どもの身体活動量の現状と課題</b> 科学的根拠を基にした幼稚園、小学校現場における身体活動の現状について解説する。また、教育現場での課題について考察し、その要因について考察する。	教育現場での身体活動について事前学習する(文献研究)。	4時間
第8回	<b>科学的根拠を基にした体育科教育</b> (1) <b>体力の概念と測定の意義と評価</b> 体力の定義および行動体力、防衛体力について解説する。また、測定方法とその意義と活用法、注意転を理解する。	体力測定について事前学習する(文献研究)。	4時間
第9回	<b>科学的根拠を基にした体育科教育</b> (2) <b>体育授業の意義と課題</b> 小学校指導要領(体育)の読み解きと改訂の意義と内容について解説する。また、幼児期の運動指針策定の意義について理解し、体育授業の現状と課題と要因について考察する。	幼児期の運動指針について事前学習する。	4時間
第10回	<b>科学的根拠を基にした体育科教育</b> (3) <b>体育授業における身体活動量</b> 体育授業の身体活動量について科学的根拠を基に解説する。また、運動領域に基づいて、1種目選択し、その現状把握を目的としたフィールドワークを行う。	体育授業時の身体活動量について事前学習する(文献研究)。	4時間
第11回	<b>新しい体育科教育実践および幼児の運動遊びプログラムの開発</b> (1) <b>フィールドワークの検証</b> フィールドワークで得られた情報を基に現状把握を行う。また、課題抽出を行いその要因を考察する。	フィールドワークで得られた情報の検証	4時間
第12回	<b>新しい体育科教育実践および幼児の運動遊びプログラムの開発</b> (2) <b>アクションプランづくり</b> フィールドワークで得られた情報を基に現状把握を行う。また、課題抽出を行いその要因を考察する。	フィールドワークで得られた情報の検証	4時間
第13回	<b>新しい体育科教育実践および幼児の運動遊びプログラムの開発</b> (3) <b>結果検証および省察</b> フィールドワークで得られた情報を基に現状把握、課題抽出を行いその要因を考察し、その解決策を提案する。	フィールドワークで得られた情報の検証および提案	4時間
第14回	<b>体育科教育実践および幼児の運動遊びプログラムの研究事例の発表・ディスカッション</b> 13回目得られた解決策を実践し、結果報告階を行いディスカッションする。	発表準備を行う	4時間
第15回	<b>フィールドワーク先への研究事例の報告とまとめ</b> 本講義で得られた専門知識を踏まえ、フィールドワークで得られた科学的根拠の検証および提案について報告をまとめる	報告資料作成	4時間

授業科目名	<b>カリキュラム開発特論V</b>				
担当教員名	川島裕子				
学年・コース等	1年・2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	演劇的手法によるワークショップの実施（2011年～現在、北海道教育大学ほかにて）				

### 授業概要

集団に着目した学習論や協同学習の理論を幅広く検討するとともに、近年のアクティブ・ラーニングに関する議論について批判的に検討する。現在の日本に限ってみても、集団に着目した学習論や協同学習論は多様に展開している。それらは効率よく知識を身につけさせるような単なるテクニックではなく、特定の間観や学習観、問題意識に基づいたものである。本科目では多様な学習論を分析し、比較検討を行うことを通じて、集団での学習や主体的な学習に関わる授業実践の分析および授業デザインを行えるようになることを目指す。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	集団学習論についての知識	集団学習論についての理論や概念および関連する近年の教育課題について理解できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	集団学習論についての専門的知識の実践への応用力	集団学習論についての専門的知識を咀嚼したうえで、具体的な教育実践を立ち上げることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		集団学習論の専門的知識および批判的思考や分析力を応用し、教育的課題を発見・検討することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求め
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
文献についての発表 30%	1. 文献の正確な理解 2. 分析の観点の明確さ 3. 資料の適切な活用
発表についてのコメント及び授業中の発言 30%	1. 論理性 2. 適時性 3. 積極性
レポート 40%	1. 論理性 2. 資料の引用 3. 独自性

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

溝上慎一（2014）『アクティブラーニングト教授学習パラダイムの転換』東信堂  
 佐藤学（2012）『学校を改革する一学びの共同体の構想と実践』岩波ブックレット  
 パウロ・フレイレ、三砂ちづる訳（2011）『新訳 被抑圧者の教育学』亜紀書房  
 茂木一司ほか編（2010）『協同と表現のワークショップー学びのための環境のデザイン』東信堂

また、授業中に適宜参考資料を配布する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められ、各授業回あたり4時間の授業外学修が必要である。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後  
 場所： 中央館5階 131  
 備考・注意事項： 詳細は初回の授業で明示します。

### 授業計画

回	内容	自分の教育体験および教育実践について集団学習論の視点から省察し、自らの関心と課題について考察する。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション——集団学習のイメージ</b>  オリエンテーションを通して、授業の目的、進め方、課題、参加の仕方等について理解する。集団学習のイメージについて受講者同士で意見交換を行う。	自分の教育体験および教育実践について集団学習論の視点から省察し、自らの関心と課題について考察する。	4時間
第2回	<b>現代の多様な議論（1）：アクティブラーニングと集団学習論</b>  近年のアクティブラーニングに関する文脈および視座を理解する。その上で、集団学習論と関連する自分の関心と課題を全体で共有する。	次の授業に向けて文献講読を行う。文献についての発表準備を行う。	4時間
第3回	<b>現代の多様な議論（2）：協同学習と協調学習</b>  課題となっていた文献講読について発表を行う。それを踏まえて全員で議論を行い、文献の理解を深める。	次の授業に向けて文献講読を行う。文献についての発表準備を行う。	4時間

第4回	<b>現代の多様な議論（3）：学びの共同体①</b> 課題となっていた文献購読について発表を行う。それを踏まえて全員で議論を行い、文献の理解を深める。	次の授業に向けて文献購読を行う。文献についての発表準備を行う。	4時間
第5回	<b>現代の多様な議論（4）：学びの共同体②</b> 課題となっていた文献購読について発表を行う。それを踏まえて全員で議論を行い、文献の理解を深める。	次の授業に向けて文献購読を行う。文献についての発表準備を行う。	4時間
第6回	<b>集団学習と学級集団づくり</b> 課題となっていた文献購読について発表を行う。それを踏まえて全員で議論を行い、文献の理解を深める。	次の授業に向けて文献購読を行う。文献についての発表準備を行う。	4時間
第7回	<b>学校教育における文化実践</b> 課題となっていた文献購読について発表を行う。それを踏まえて全員で議論を行い、文献の理解を深める。	次の授業に向けて文献購読を行う。文献についての発表準備を行う。	4時間
第8回	<b>集団学習の形態：ワークショップ①</b> 課題となっていた文献購読について発表を行う。それを踏まえて全員で議論を行い、文献の理解を深める。	次の授業に向けて文献購読を行う。文献についての発表準備を行う。	4時間
第9回	<b>集団学習の形態：ワークショップ②</b> 課題となっていた文献購読について発表を行う。それを踏まえて全員で議論を行い、文献の理解を深める。	次の授業に向けて文献購読を行う。文献についての発表準備を行う。	4時間
第10回	<b>集団学習の技法（1）対話</b> 課題となっていた文献購読について発表を行う。それを踏まえて全員で議論を行い、文献の理解を深める。	次の授業に向けて文献購読を行う。文献についての発表準備を行う。	4時間
第11回	<b>集団学習の技法（2）ナラティブ</b> 課題となっていた文献購読について発表を行う。それを踏まえて全員で議論を行い、文献の理解を深める。	これまでのまとめとして、さまざまな論点を統合しながら整理を行う。	4時間
第12回	<b>集団学習のための授業デザイン（1）実践の立ち上げ</b> これまでのまとめとしての議論を行う。最終レポートについて理解する。	これまでのまとめとして、さまざまな論点を統合しながら整理を行う。最終レポートの執筆ならびに発表準備を行う。	4時間
第13回	<b>集団学習のための授業デザイン（2）概念の統合</b> 課題となっていた最終レポートについて発表を行う。それを踏まえて全員で議論を行う。	これまでのまとめとして、さまざまな論点を統合しながら整理を行う。最終レポートの執筆ならびに発表準備を行う。	4時間
第14回	<b>集団学習のための授業デザイン（3）実践の分析と考察</b> 課題となっていた最終レポートについて発表を行う。それを踏まえて全員で議論を行う。	最終レポートの修正を行う。最終レポートの発表準備を行う。	4時間
第15回	<b>集団学習のための授業デザイン（4）発表と総括</b> レポートの講評および総合討論を行う。	最終レポートの修正を行う。	4時間

授業科目名	<b>学校教育実践演習 I</b>				
担当教員名	辻村敬三				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都市立豊学校6年 京都市公立小学校勤務20年 京都府教育委員会指導主事等勤務7年				

### 授業概要

小学校、幼稚園におけるフィールドワークにより、言語能力育成に関わる諸課題を軸として保育、授業づくりの検討を行う。ボランティアあるいはインターンシップとして学校教育に参加しつつ、参与観察や関係者へのインタビュー等とおして、多角的、立体的に課題を探究する。その際、大学院生の協働によるフィールドワークの省察を「ケース・メソッド」で取り組む。そのことで課題分析を深化させるとともに、解決へ向けて創造的、組織的に実践できる力を身に付ける。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	言語能力に係る諸理論及び分析の手法を学ぶ	多角的な視点から児童の言語能力育成に係る課題を分析することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	言語能力育成を柱とした学校改善計画の作成	分析した課題を解決するための取り組みを学校改善計画にまとめることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		多角的な視点から実態を捉え課題を分析することができる。
2．DP5. 計画・立案力		課題解決のための過程を明確にし、具体性のある計画を立案できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ、放棄とみなし、不可とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

期末レポート	40%	： 課題に即して分析し、創造的に考察できているかなど、本学共通のルーブリックに即して評価する。
プレゼンテーション	40%	： 各自の保育・学校改善プランについて、説得力のあるプレゼンテーションが行えているか独自のルーブリックにより評価する。
授業への参加態度	20%	： フィールドワークへの参加、討論への積極的な参加等について評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

授業の中で、適宜指定する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

これからの学校教育実践の在り方を言語能力育成に関わる諸課題を軸としてケースメソッド形式で探求し、フィールドワークを通して、学校教育実践プログラムを開発します。それぞれ課題意識を明確にして、主体的に授業に臨むことを期待します。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業後
場所：	中央館2階 辻村研究室

### 授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p><b>現代の保育・教育の課題（1）言語能力の育成に関する現状と課題</b></p> <p>言語能力の育成に関して、保育もしくは学校教育の現状と課題を探るための視点として、国語の能力、読解力、表現力などのキーワードについて理解を深める。その上で、自分自身の視点を明確にし、各自が関わっている教育現場における現状と課題について考える。</p>	<p>受講者各自が関わる保育・教育現場における言語能力育成に関する現状と問題点をリストアップする。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p><b>現代の保育・教育の課題（2）具体的体験の内省的観察から研究テーマ設定へ</b></p> <p>教育現場での教職経験や実習経験を振り返って、言語能力の育成に関する現状と課題を具体的に記述し、各自の研究テーマの方向を定める。</p>	<p>言語能力育成に関する現状と課題が端的に表れた具体的な場面やエピソードを思い起こしてメモ等を作成する。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p><b>研究手法の検討 「ケース・メソッド」の原理と手法</b></p> <p>実践的な課題解決の手法として「ケース・メソッド」の方法を使い、各自が想定したケースについてグループで討論を進め、実践研究の方向を検討する。</p>	<p>各自の実践研究の目的と仮説、おおまなか見直しを記述する。</p> <p>4時間</p>

第4回	<b>研究計画の立案（1）仮説の指定と検証過程の検討</b> 言語能力の育成に係る課題を解決するための「改善案」を仮説として定め、検証のための方法と具体的な過程を検討する。	各自、「改善案」を検証する方法と具体的な過程を実践研究計画案としてまとめる。	4時間
第5回	<b>研究計画の立案（2）フィールドリサーチとフィールドワーク①（観察的参与）計画の検討</b> 観察的参与に関する基本的な内容を学び、各自が関わる教育現場をフィールドとして調査、観察等を行う方法を検討し、現状と課題を捉えるための具体的な計画を立案する。	受講者が関係する保育・教育現場でフィールドワークを実施し、その結果を報告する準備をする。	4時間
第6回	<b>フィールドワーク①の省察（1）体験事象・観察事象の記述と共有化</b> フィールドワークを通して得た体験、調査、観察の結果をケースとして記述する方法を学び、グループで共有することを通して考察を深める。	グループ交流を通して深めた考察をレポートにまとめる。	4時間
第7回	<b>フィールドワーク①の省察（2）体験・観察の分析・検討による仮説の検証</b> フィールドワークで得たケースについて、課題解決のための方策についてグループ、クラスで討論し仮説を立てる。	グループ交流を通して深めた考察をレポートにまとめる。	4時間
第8回	<b>フィールドワーク②（能動的・実験的参与）計画の立案</b> フィールドワークで得た課題解決の方策を仮説として、それを検証するための能動的・実験的参与の方法を学び、フィールドワーク②の具体的な計画を立てる。	フィールドワークの計画を具体化し、各自が関係する保育・教育現場でフィールドワークを実施する。	4時間
第9回	<b>フィールドワーク②の省察（1）能動的・実験的参与から得た結果の記述と共有化</b> フィールドワーク②を通して得た課題解決の方策について、その結果をケースとして記述する方法を学び、グループで共有することを通して考察を深める。	フィールドワークの結果とグループ交流で得た考察をまとめる。	4時間
第10回	<b>フィールドワーク②の省察（2）能動的・実験的参与から得た結果の分析・検討</b> フィールドワークで得たケースについて、課題解決のための方策の成果や効果についてグループ、クラスで討論し、考察を深める。	グループ交流で深めた考察をレポートにまとめる。	4時間
第11回	<b>フィードバックを通じた考察…フィールドワーク先の教員等へのフィードバックと協議</b> フィールドワーク先の教員等へフィードバックするために、2回のフィールドワークで得た結果をまとめ、記述する。	保育・教育現場へのフィードバックを行い、その評価と助言をまとめる。	4時間
第12回	<b>フィールドワークの総括…仮説、検証、理論化の過程をストーリーとして記述</b> これまでの実践研究の過程を仮説→検証→理論化のストーリーとして記述し、グループで交流することで相互に精査し、考察を深める。	実践研究のストーリーをプレゼンテーションする説明スライドを作成する。	4時間
第13回	<b>学校教育実践の提言（1）言語力育成に関わる保育・学校改善プランの立案と検討</b> これまでの研究成果を「保育改善プラン」または「学校改善プラン」としてまとめ、グループで交流することでブラッシュアップする。	保育改善プラン・学校改善プランの説明スライドを作成する。	4時間
第14回	<b>学校教育実践の提言（2）言語力育成に関わる保育・学校改善プランのプレゼンテーション</b> 各自の改善プランをプレゼンテーションし、相互に評価や助言を行うことで、さらにブラッシュアップを図る。	自分のプレゼンテーションを省察し、成果と課題をまとめる。	4時間
第15回	<b>研究活動全体の省察と今後の研究課題の検討</b> これまでの授業で学んできた、現状把握、課題分析、問題解決の手法を整理し、そこで得た内容的な学びと方法的な学びについて省察し、現場での実践に、向けての展望を持つ。	本授業で得た学びを整理し、まとめる。	4時間



授業科目名	<b>学校教育実践演習Ⅱ</b>				
担当教員名	橋本隆公				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪市立小学校教諭9年間・大阪教育大学附属平野小学校教諭9年間・同主幹教諭2年間・同副校長2年間 主に、算数科教育実践研究・総合的学習実践研究・幼小中高特別支援共同研究・保護者参画・学校運営				

### 授業概要

大学院生と教員による協働研究を通じて、幼稚園と小学校との異校種間連携や、算数科と総合的な学習等の教科領域横断的カリキュラム開発と、保育・授業づくりの検討を行う。その際、大学院生による小学校や幼稚園での「フィールドワーク」と、大学院生の協働によるフィールドワークの省察を「ケース・メソッド」で取り組む。そうすることで、幼稚園・小学校現場で中心的な役割を担いながら、創造的なカリキュラム開発と保育・授業づくりを組織的に実践できる力を身につけることができる。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

幼稚園と小学校との異校種間連携や、算数科と総合的な学習等の教科領域横断的カリキュラム開発と、保育・授業づくりのプログラムを検討し、実践を通して省察する。

#### 目標：

これからの学校教育実践の在り方をケース・メソッド形式で学び、フィールドワークを通して、学校教育実践プログラムを開発することができる。

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP5. 計画・立案力

幼稚園と小学校との異校種間連携や、算数科と総合的な学習等の教科領域横断的カリキュラム開発

小学校や幼稚園での「フィールドワーク」と、大学院生の協働によるフィールドワークの省察を「ケース・メソッド」で取り組む。

### 学外連携学修

有り（連携先：大阪教育大学附属平野小学校など）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- 問答法・コメントを求める
- 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- 見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
第1回から第6回までの毎回のレポート 30%	幼稚園と小学校との異校種間連携や、算数科と総合的な学習等の教科領域横断的カリキュラム開発
新しい学校教育実践プログラムの案、及び省察 40%	小学校や幼稚園での「フィールドワーク」
発表・ディスカッション・まとめ 30%	フィールドワークの省察を「ケース・メソッド」で取り組む。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

特になし（適時、配付する）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

土曜日開催になったため、フィールドワークについては、平日に実施する場合がある。よって、土曜日隔週開講を想定している。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日の本授業前後

場所： 橋本研究室

備考・注意事項： 必要に応じて、木曜日の17：20以降も対応できます。いずれにしても、メールでアポイントをお願いします。

### 授業計画

回数	内容	勤務校園の特色	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス、及び、各学校の特色</b> これからの学校教育実践のあり方（1）全ての教職員で創り上げる各学校の特色	勤務校園の特色のレポート	4時間
第2回	<b>各学校のカリキュラム</b> これからの学校教育実践のあり方（2）カリキュラム・マネジメント	勤務校園のカリキュラムのレポート	4時間
第3回	<b>異校種間連携</b> これからの学校教育実践のあり方（3）幼稚園・小学校・中学校との連携	勤務校園の異校種間連携のレポート	4時間
第4回	<b>保護者・地域との連携</b> これからの学校教育実践のあり方（4）保護者の参画とコミュニティースクール	勤務校園の保護者・地域連携のレポート	4時間
第5回	<b>海外比較</b>	海外の教育事例のレポート	4時間

	これからの学校教育実践のあり方（5）オーストラリアの学校教育実践「ブレック」に学ぶ		
第6回	<b>アクティブ・ラーニングの推進</b> これからの学校教育実践のあり方（6）算数科・総合的な学習を例にしたアクティブラーニング	勤務校園のアクティブ・ラーニングのレポート	4時間
第7回	<b>プログラム開発（1） 計画</b> 新しい学校教育実践プログラムの開発（1）プランづくり	計画書作成	4時間
第8回	<b>プログラム開発（2） 検討</b> 新しい学校教育実践プログラムの開発（2）プランの検討	計画書修正	4時間
第9回	<b>プログラム開発（3）プランの共有</b> 新しい学校教育実践プログラムの開発（3）フィールドワーク先とのプランの共有	具体案作成	4時間
第10回	<b>プログラム開発（4） 実践の実施</b> 新しい学校教育実践プログラムの開発（4）フィールドワーク先での教育実践	実践記録作成	4時間
第11回	<b>プログラム開発（5） 実践の省察</b> 新しい学校教育実践プログラムの開発（5）フィールドワーク先との省察	実践のレポート	4時間
第12回	<b>プログラムの開発（6） 省察</b> 新しい学校教育実践プログラムの開発（6）省察	振り返りのレポート	4時間
第13回	<b>プログラムの改善</b> 新しい学校教育実践プログラムの開発（7）アクションプランづくり	アクションプラン作成	4時間
第14回	<b>発表会</b> 学校教育実践プログラムの研究事例の発表・ディスカッション	フィールドワーク先への報告に関するレポート	4時間
第15回	<b>総括</b> フィールドワーク先への研究事例の報告とまとめ ※各自、フィールドワーク先へ、報告を済ませた上で、第15回に取る組む	まとめのレポート	4時間

授業科目名	<b>教育コミュニティ特論</b>				
担当教員名	平阪美穂				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

### 授業概要

子供のよりよい育ちのためには、コミュニティ全体で総合的に子供を支えていくことが必要であるという立場から、主に子供を中心とした教育コミュニティについて扱う。前半では、教育コミュニティに関する理念や、それが必要とされる背景及び現状について学ぶ。後半では、国内外の教育コミュニティに関する様々な事例をもとにして、教育コミュニティづくりの実態および工夫や課題について検討し、よりよい教育コミュニティに必要なものは何かについて受講生と議論していきたい。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

専門に関わる確かな知識・技能、職業理解を身につけている。

#### 目標：

教育コミュニティが求められる背景や現状について理解し、説明することができる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP4. 課題発見

論理的に考え、課題を明らかにすることができる。

教育コミュニティの意義について自らの考えを述べるができるとともに、「学校と地域の連携」をこえた教育コミュニティのあり方について具体的な場面を想定して考えることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内課題	50%	: 文献を理解し、適切に分かりやすく資料がまとめられているかどうか。資料を用いて分かりやすく発表し、議論を促すことができたかどうか。
授業への参加度	20%	: 議論に主体的に参加できているかどうか。自らの考えを述べるができているかどうか。
期末レポート	30%	: 教育コミュニティのあり方について考えることができたかどうか。適切な資料を用いて、論理的に説明することができたかどうか。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

エドワード・G・オルセン著『学校と地域社会』小学館、1950年  
 門脇厚司著『社会力を育てる―新しい「学び」の構想』岩波書店、2010年  
 金子郁容編著『コミュニティ・スクール構想』岩波書店、2000年

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。受講生の属性、興味関心に応じて授業計画を変更する場合があるが、その場合は事前に説明する。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 初回の授業時に連絡する。

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション 受講生の教育コミュニティ観の共有</b> 本授業の内容について概説する。受講生のこれまでのコミュニティとのつながりについて振り返る。	文献を講読し、レジュメを作成する。 4時間
第2回	<b>コミュニティと地域</b> コミュニティとはなにか、地域とは何かについて検討する。	文献を講読し、レジュメを作成する。 4時間
第3回	<b>子供、学校と地域社会</b> 子供、学校が地域社会とどのように結び付いてきたかについて考察する。	文献を講読し、レジュメを作成する。 4時間
第4回	<b>学校と地域の連携（1）背景</b> 近年、学校と地域の連携が必要とされてきた背景について考察する。	文献を講読し、レジュメを作成する。 4時間
第5回	<b>学校と地域の連携（2）開かれた学校と地域とともにある学校</b> 学校と地域の連携に関する政策の動向について考察する。	文献を講読し、レジュメを作成する。 4時間

第6回	<b>教育コミュニティにおける家庭</b> 家庭教育と地域・教育コミュニティ教育との関係について検討する。	文献を講読し、レジュメを作成する。	4時間
第7回	<b>専門機関、団体等との連携・協働</b> 子供に関係する様々な専門機関等が連携して、よりよい教育を行うにはどのようにすればいいか検討する。	文献を講読し、レジュメを作成する。	4時間
第8回	<b>子育て支援と地域コミュニティ</b> 地域での子育てが求められるようになってきている。子ども子育て新制度においてどのような子育て支援が求められているのか考察する。	文献を講読し、レジュメを作成する。	4時間
第9回	<b>困難をかかえる子供と教育コミュニティ（1）学校を中心に</b> 子供がかかえる課題が複雑化してきていることに伴い、学校だけでは対応が難しくなっている。地域の力を活用してこの問題に取り組む学校の事例について検討する。	事例について調査し、レジュメを作成する。	4時間
第10回	<b>困難をかかえる子供と教育コミュニティ（2）地域を中心に</b> 地域コミュニティが主体となって行われている困難をかかえる子供の支援について、事例をもとに検討する。	事例について調査し、レジュメを作成する。	4時間
第11回	<b>人口減少地域と教育コミュニティ（1）学校を中心に</b> 人口減少地域における教育コミュニティの意義について学校側からの視点から検討する。	事例について調査し、レジュメを作成する。	4時間
第12回	<b>人口減少地域と教育コミュニティ（2）地域を中心に</b> 人口減少地域における教育コミュニティの意義について地域側からの視点から検討する。	事例について調査し、レジュメを作成する。	4時間
第13回	<b>海外における教育コミュニティ（1）学校を中心に</b> 教育コミュニティは諸外国においても重要視されている。英国における教育コミュニティを活用した学校運営について考察する。	文献を講読し、レジュメを作成する。	4時間
第14回	<b>海外における教育コミュニティ（2）地域を中心に</b> 教育コミュニティは諸外国においても重要視されている。英国における地域が一体となった子供をとりまく活動について考察する。	文献を講読し、レジュメを作成する。	4時間
第15回	<b>教育コミュニティの課題と可能性について考える</b> これまでを振り返り、学びを深化させる。	これまでの授業を復習し、レポートを作成する。	4時間

授業科目名	<b>対人援助特論</b>				
担当教員名	岩崎久志				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

### 授業概要

今日、教育をめぐる問題は複雑多様化してきている。不登校、いじめ、貧困、虐待など、学校は子どもが抱える様々な課題に直面している。そのような状況にあって、すべての問題に教員のみで対応するのはもはや困難である。本授業では、より広い見地から教育実践の省察を通して問題解決を模索していく。実践的な学びとして、スクールカウンセリングやスクールソーシャルワークなどを活用した「チーム学校」を念頭に置き、さらにコミュニティにおける多様な対人援助の協働による支援のあり方を検討する。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

教育コミュニティモデルの構築について理解を深めていくとともに、学校と家庭および地域の相談機関などが協働して教育実践を行うための課題と展望について検討する。

#### 目標：

「チーム学校」を念頭に置き、コミュニティにおける多様な対人援助の支援のあり方について理解し、援助実践に積極的に関与、協働できるための知識を身につける。

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践
3. DP9. 役割理解・連携行動

教育現場や地域が抱える問題を発見するアセスメントの能力を身につけ、具体的に取り組むべき課題として提示できるための力を修得する。

広い意味での対人援助に携わる者として、必要最低限の傾聴能力を身につける。

課題解決に向けて必要となる資源の見立て、他職種と有効な連携協働を図れる能力を身につける。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業における積極的な参画、ディスカッション、発表	40%	授業への積極的な姿勢や習熟度を評価します。
期末レポート試験	60%	試験期間内のレポート試験において習熟度を確認・評価します。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
岩崎久志	対人援助に活かすカウンセリング	晃洋書房	2020年

### 参考文献等

岩崎久志『ストレスとともに働く - 事例から考えるこころの健康づくり - 』晃洋書房、2017年

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： メールアドレスを開示するので、活用願いたい。Hisashi\_Iwasaki@red.umds.ac.jp

### 授業計画

第1回	対人援助の概念	自身のフィールドと関わりのある対人援助の領域について調べる。	授業外学修課題にかかる目安の時間
	対人援助の概要と現状について学ぶ。		4時間
第2回	学校教育と対人援助の関係	「チーム学校」を視野に入れて、学校現場にどのような対人援助職が支援に関わっているのか調べる。	4時間
	学校教育、特に学校現場と関わる対人援助および専門職について学ぶ。		

第3回	<b>今日の学校をめぐる問題（1）不登校、いじめ、暴力行為</b> 学校をめぐる問題行動の諸相と現状について学ぶ。	学校をめぐる問題行動の諸相と現状(データ)について調べる。	4時間
第4回	<b>今日の学校をめぐる問題（2）貧困、虐待など、家庭の養育機能の低下</b> 学校をめぐる問題行動の諸相と現状について学ぶ。特に、子どもを取り巻く環境要因を理解する。	福祉的な視点も視野に入れて、学校をめぐる問題行動の諸相と現状(データ)について調べる。	4時間
第5回	<b>今日の学校をめぐる問題（3）教師の多忙化、メンタルヘルス不調など</b> 今日の「働き方改革」の議論を念頭に置いて、教師の多忙化、メンタルヘルス不調について学ぶ。	教師の多忙化、メンタルヘルス不調など、教師の労働環境について調べる。	4時間
第6回	<b>「チーム学校」における学際性の重要性～生徒指導、教育相談を視野に～</b> 「チーム学校」の概要を踏まえて、そこにおける学際的な連携協働の重要性について学ぶ。	いわゆる「チーム学校」の概念と現状について調べる。	4時間
第7回	<b>臨床教育学における学際性の概念について</b> 臨床教育学の概要(ディシプリン)と学際性の重要性について学ぶ。	臨床教育学とはどのような学問か、調べておく。	4時間
第8回	<b>「チーム学校」と対人援助（1）スクールカウンセリング</b> スクールカウンセリングの概要、現状と課題について学ぶ。	スクールカウンセリングの概要について調べる。	4時間
第9回	<b>「チーム学校」と対人援助（2）スクールソーシャルワーク</b> スクールソーシャルワークの概要、現状と課題について学ぶ。	スクールソーシャルワークの概要について調べる。	4時間
第10回	<b>「チーム学校」と対人援助（3）特別支援教育等の実践</b> 特別支援教育等の概要、現状と課題について学ぶ。	特別支援教育の概要について調べる。	4時間
第11回	<b>教育コミュニティにおける学校・家庭・地域の連携のあり方</b> 有効な教育コミュニティの実現に向けた、学校・家庭・地域の連携のあり方について学ぶ。	学校・家庭・地域の連携の現状と課題について調べる。	4時間
第12回	<b>地域における社会資源の活用（1）専門相談機関、専門職</b> 地域における社会資源、特に専門相談機関および専門職の活用方法について学ぶ。	地域の社会資源にはどのようなものがあるか、特に専門相談機関および専門職について調べる。	4時間
第13回	<b>地域における社会資源の活用（2）インフォーマルな資源</b> 地域における社会資源、中でもインフォーマルなものの活用方法について学ぶ。	地域の社会資源にはどのようなものがあるか、インフォーマルなものについて調べる。	4時間
第14回	<b>ケースマネジメントの活用</b> 「チーム学校」の実践における、ケースマネジメントの活用について学ぶ。	ケースマネジメントの概要と現状について調べる。	4時間
第15回	<b>まとめ～実効性のある「チーム学校」の実現に向けて～</b> 実効性のある「チーム学校」の実現に向けて、対人援助のあり方について学ぶ。	実効性のある「チーム学校」とはどのようなものか、それぞれが思い描くあり方をまとめる。	4時間

授業科目名	<b>家庭支援特論</b>				
担当教員名	山本智也				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	家庭裁判所調査官として心理学、社会福祉学、教育学などの専門的な知識や技法を活用し、家庭内の問題の解決や非行少年の立ち直りに向けた「調査」や「調整」を担当。（全15回）				

### 授業概要

家族の構造、形態、機能について諸理論について理解した上で、今日の子育て家庭に焦点をあて、家庭支援の意義と役割についての認識を深めていくことを目的とする。具体的には、家族の今日的課題を明らかにした上で、特に家庭の教育的機能に焦点をあて、家族内コミュニケーションのあり方について理解を深めていく。さらに、家庭教育支援を実施していくにあたって、システムズ・アプローチの認識論に立って家族の問題をとらえる意義、さらには社会構成主義の考え方を踏まえた具体的な支援の方法論について考究していく。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	家族をめぐる諸理論、家族の今日的課題、家庭支援の方法論	家族に関する諸理論を踏まえ、家族に対する具体的な支援のあり方を理解することができる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		家族に関する諸理論を踏まえ、家族に対する具体的な支援に取り組むことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業におけるテーマ別発表とディスカッション	： 事前学修の準備内容を踏まえた発表・討論への参加を総合的に評価する。 60%
レポート	： 授業で理解した内容と自らの実践とを関連づけて、家族援助の理論をとりあげ、具体的実践のあり方についての考察を総合的に評価する。 40%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

広田照幸編『＜理想の家族＞はどこにあるのか？（きょういくのエポケー第1巻）』教育開発研究所、2002年  
日本家族研究・家族療法学会編『家族療法テキストブック』金剛出版、2013年  
大下由美・小川全夫・加茂 陽編『ファミリー・ソーシャルワークの理論と技法 社会構成主義的観点から』九州大学出版会、2014年

### 履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められ、各授業回あたり4時間の授業外学修が必要である。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所： 中央館2階個人研究室79

備考・注意事項： 備考・注意事項： 授業外での質問の方法  
質問は授業の前後にも答えるが、Eメールでも対応する。  
メールアドレス：yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp  
ただし、件名に「家庭支援特論：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

### 授業計画

回数	テーマ	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>家族と社会とのかかわり</b>	授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 社会システムの中での家族の位置づけ、現代の家族が当面する諸課題を概括します。	4時間
第2回	<b>家族の歴史の変遷</b>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 日本における家族の歴史の変遷を取り上げ、家族というものの変化をとらえていきます。	4時間
第3回	<b>家族の定義と家族に関連する制度</b>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 「家族とは何か」ということについて、家族に関連する制度と照らし合わせながら、その概念をとらえていきます。	4時間
第4回	<b>家族の機能と心理構造</b>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間

	<p>家族にはどのような機能があるのか、家族成員、さらには家族成員相互の関係性といった点に着目して、その心理構造について考えていきます。</p>		
第5回	<p><b>家族の発達段階</b></p> <p>家族には様々な発達段階があり、それぞれにある発達課題をとらえていきます。</p>	<p>当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。</p>	4時間
第6回	<p><b>人の一生と家族の危機</b></p> <p>家族のライフコースという考え方を示した上で、家族の危機に関する理論を学びます。</p>	<p>当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。</p>	4時間
第7回	<p><b>子どもの養育と社会化</b></p> <p>家族の機能の一つである子どもの養育と社会化という点に焦点をあて、家族の今日的課題について考えていきます。</p>	<p>当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。</p>	4時間
第8回	<p><b>家庭教育の現状と家庭を取り巻く課題</b></p> <p>家庭教育という点に焦点をあてて、家庭を取り巻く今日的課題について考えていきます。</p>	<p>当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。</p>	4時間
第9回	<p><b>家族内コミュニケーション</b></p> <p>家族内コミュニケーションに焦点をあてて、家族の関係性をとらえていく理論を学びます。</p>	<p>当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。</p>	4時間
第10回	<p><b>家族アセスメントの理論と技法</b></p> <p>家族アセスメントについて、その基本的な考え方を学んだ上で、具体的なアセスメント技法について学びます。</p>	<p>当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。</p>	4時間
第11回	<p><b>家庭支援の理論(1) システムズ・アプローチ</b></p> <p>システムズ・アプローチの認識論に立って家族の問題をとらえる意義を踏まえた上で、家族支援のあり方を学びます。</p>	<p>当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。</p>	4時間
第12回	<p><b>家庭支援の理論(2) 社会構成主義とナラティブ・セラピー</b></p> <p>社会構成主義の考え方を踏まえた具体的な支援の方法論について学びます。</p>	<p>当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。</p>	4時間
第13回	<p><b>家族療法の実際</b></p> <p>家族療法の理論と実践について具体的な事例を通して学びます。</p>	<p>当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。</p>	4時間
第14回	<p><b>地域の教育力を活かした家庭教育支援の在り方</b></p> <p>家庭教育を支援していくための理論と方法論を学びます。</p>	<p>当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。</p>	4時間
第15回	<p><b>家庭支援の今後の方向性</b></p> <p>家庭支援の意義と役割についての学びを踏まえ、今後の家庭支援の方向性と課題を考えていきます。</p>	<p>当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。</p>	4時間



授業科目名	<b>コミュニティ・スクール特論</b>				
担当教員名	西 孝一郎				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	コミュニティ・スクールで教頭・校長を経験。教育委員会でコミュニティ・スクールの実施を支援。文部科学省コミュニティ・スクール推進員（CSマイスター）				

### 授業概要

まず、コミュニティ・スクールの概要を知り、コミュニティ・スクールの目的と活動を理解できるようにする。次に、テキストを使って、今後の研究目的や研究方法を理解する。3番目に、テキストを輪読し、コミュニティ・スクールの制度や学校運営協議会の活動について、グループワーク等を通して理解できるようにする。さらに、コミュニティ・スクールの成果や評価についてまとめ、コミュニティ・スクールについての自分の考えをまとめることができるようにする。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP8. 意思疎通

#### 具体的内容：

学校・家庭・地域が連携して課題を解決していく意義と方法について理解する。  
コミュニティ・スクールが設置されてきた経緯・成果・課題を研究する。

#### 目標：

コミュニティ・スクールの概要を理解する。  
コミュニティ・スクールの成果と課題をまとめることができる。  
テキストの読解を通して、地域を扱う研究の方法を理解することができる。  
研究内容の発表を通して、相手意識をもって伝えることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

毎回の振り返りレポート	30%	： 講義の視点に沿って、振り返りができている。
最終レポート（定期試験）	50%	： 講義をもとに、「コミュニティ・スクールの成果と課題」を、自分なりにまとめることができている。
ワークショップへの参加度（担当部分の発表）	20%	： 担当部分の発表準備を適切に行い、発表することができている。

### 使用教科書

#### 指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
佐藤晴雄	『コミュニティ・スクールの成果と展望』	・ ミネルヴァ書房	・ 2017年

### 参考文献等

佐藤晴雄『コミュニティ・スクール』エイデル研究所、2016年  
貝ノ瀬滋『図説 コミュニティ・スクール入門』一藝社、2017年

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 各授業終了後  
場所： 授業の教室  
備考・注意事項： メールでの質問、意見も可  
k-nishi@mail.koka.ac.jp

### 授業計画

第1回	オリエンテーション コミュニティ・スクールの概要	1. コミュニティ・スクールに関する経験が話せるようにまとめておく。2. コミュニティ・スクールに関する文部科学省資料を見つけ、読んでおく。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	--------------------------	--	-------------------------

	<p>まず、本授業の計画を知り、見通しをもつ。本授業では、「コミュニティ・スクールの成果と展望」のテキストを使用し、コミュニティ・スクールについての理解を深めるとともに、研究方法を学ぶことも目的とする。本授業で扱うコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）は、設置が努力義務とされており、現在全国の約2割の学校がすでにコミュニティ・スクールになっている。このような現状も含めて、本授業に対する見通しをもてるようにしたい。</p> <p>次に、コミュニティ・スクールについて知っていることを交流する。コミュニティ・スクールについては、すでに取り組んだ経験をもつ受講生と新たな受講生の間で、認識の差が大きい。そこで、コミュニティ・スクールという言葉から受けるイメージを交流するにとどめる。この交流を通して、「コミュニティ」に対する捉え方を、ある程度そろえておきたい。</p>		
第2回	<p><b>コミュニティ・スクールの目的と活動</b></p> <p>まず、講師によるコミュニティ・スクールの概要説明を聞く。ここでは、コミュニティ・スクールの目的・内容を明確に理解し、これからの学修の方向を定めることができるようにする。また、コミュニティ・スクールにおける「承認」の意味を正しく理解し、法的根拠に基づくコミュニティ・スクールであることがわかるようにする。</p> <p>次に、今後の授業の中で取り上げる課題を明確にし、主体的にコミュニティ・スクールの問題に向き合い、多面的な理解ができるようにしていく。</p>	<p>1. 地域の人との交流を通して、心に残った言葉をまとめておく。2. コミュニティ・スクールについての疑問点をまとめる。</p>	4時間
第3回	<p><b>コミュニティ・スクール研究の目的</b></p> <p>テキスト「コミュニティ・スクールの成果と展望」（序章 本研究の目的と方法 1～2節）を読み、まとめの発表を聞くことにより、研究の目的を理解する。</p> <p>まず、コミュニティ・スクール研究の問題意識についてまとめ、研究の背景を理解する。</p> <p>次に研究の目的を、学校運営参画の視点、権限の視点、有効性の視点から整理し、研究仮説を理解する。</p>	<p>1. テキスト「コミュニティ・スクールの成果と展望」（序章 本研究の目的と方法 1～2節）を読み、自分なりにレジュメにまとめる。2. テキストを読んで考えたことをまとめておく。</p>	4時間
第4回	<p><b>コミュニティ・スクール研究の方法</b></p> <p>テキスト「コミュニティ・スクールの成果と展望」（序章 本研究の目的と方法 3～5節）を読み、まとめの発表を聞くことにより、研究の方法を理解する。</p> <p>まず、コミュニティ・スクール研究の方法を、学校運営協議会の在り方から理解する。</p> <p>次に、コミュニティ・スクールにかかわる先行研究を整理・分析することにより、研究の方法を明らかにする。</p>	<p>1. テキスト「コミュニティ・スクールの成果と展望」（序章 本研究の目的と方法 3～5節）を読み、自分なりにレジュメにまとめる。2. テキストを読んで考えたことをまとめておく。</p>	4時間
第5回	<p><b>学校運営参画の仕組としてのコミュニティ・スクール制度</b></p> <p>テキスト「コミュニティ・スクールの成果と展望」（第1章 学校運営参画の仕組としてのコミュニティ・スクール制度）を読み、まとめの発表を聞くことにより、理解を深めるようにする。</p> <p>まず、海外の実践も含めてコミュニティ・スクールのタイプ分けを行い、日本のコミュニティ・スクールが、どこに位置しているのかを理解できるようにする。</p> <p>次に、スクール・ガバナンスの定義についてまとめ、コミュニティ・スクールがどのようにスクール・ガバナンスにかかわっているのかを理解する。</p> <p>3番目に、「参画」の意義を考え、これまでの「協力」を超えた「地域とともにある学校」づくりの意義を理解できるようにする。</p>	<p>1. テキスト「コミュニティ・スクールの成果と展望」（第1章 学校運営参画の仕組としてのコミュニティ・スクール制度）を読み、自分なりにレジュメにまとめる。発表担当者は、相手に伝わるように意識してまとめる。2. テキストを読んで考えたことをまとめておく。</p>	4時間
第6回	<p><b>我が国における学校・地域関係の変容過程</b></p> <p>テキスト「コミュニティ・スクールの成果と展望」（第2章 我が国における学校・地域関係の変容過程）を読み、まとめの発表を聞くことにより、理解を深めるようにする。</p> <p>まず、戦後の学校・地域連携の時期区分とその特徴をまとめ、「地域に開かれた学校」から、コミュニティ・スクールになっていく背景を理解できるようにする。</p> <p>次に、学校・地域連携の変容傾向をまとめ、ボランティアなど学校支援活動をきっかけに、地域社会づくりへ向かっていく過程を理解できるようにする。</p>	<p>1. テキスト「コミュニティ・スクールの成果と展望」（第2章 我が国における学校・地域関係の変容過程）を読み、自分なりにレジュメにまとめる。発表担当者は、相手に伝わるように意識してまとめる。2. テキストを読んで考えたことをまとめておく。</p>	4時間
第7回	<p><b>コミュニティ・スクール制度の制定過程</b></p> <p>テキスト「コミュニティ・スクールの成果と展望」（第3章 コミュニティ・スクール制度の制定過程）を読み、まとめの発表を聞くことにより、理解を深めるようにする。</p> <p>まず、教育改革国民会議の提案と法改正を知り、コミュニティ・スクール制度が教育論・政策論2つの側面から生まれてきたことを理解する。</p> <p>次に、コミュニティ・スクール創設の背景を調べ、講師から当時の経緯を聞くことにより、日本版コミュニティ・スクールが生まれてきた過程を知る。それとともに、学校支援本部事業などの学校支援活動が、コミュニティ・スクール創設当初、どのように受け止められていたのかを理解する。</p> <p>3番目に、日本で最初にできた「学校理事会」の成果と課題をまとめ、現在の取組への影響を考える。</p>	<p>1. テキスト「コミュニティ・スクールの成果と展望」（第3章 コミュニティ・スクール制度の制定過程）を読み、自分なりにレジュメにまとめる。発表担当者は、相手に伝わるように意識してまとめる。2. テキストを読んで考えたことをまとめておく。</p>	4時間
第8回	<p><b>学校運営協議会の特質</b></p> <p>テキスト「コミュニティ・スクールの成果と展望」（第4章 学校運営協議会の特質）を読み、まとめの発表を聞くことにより、理解を深めるようにする。</p> <p>まず、学校運営協議会の役割と権限をまとめ、学校運営協議会が必ず行うこと（必須）と任意事項の違いを理解できるようにする。</p> <p>次に、学校運営協議会から派生した活動について知り、幅広い活動の可能性に気付くようにする。</p> <p>3番目に、コミュニティ・スクールにおけるスクール・ガバナンスとソーシャル・キャピタルの関係をまとめ、さまざまな地域連携活動から、どのようにしてコミュニティ・スクールへ移行・発展していったのかを理解できるようにする。</p>	<p>1. テキスト「コミュニティ・スクールの成果と展望」（第4章 学校運営協議会の特質）を読み、自分なりにレジュメにまとめる。発表担当者は、相手に伝わるように意識してまとめる。2. テキストを読んで考えたことをまとめておく。</p>	4時間

第9回	<b>コミュニティ・スクール指定校数と文部科学省の施策</b>	1. テキスト「コミュニティ・スクールの成果と展望」(第5章 コミュニティ・スクール指定校数と文部科学省の施策)を読み、自分なりにレジュメにまとめる。発表担当者は、相手に伝わるように意識してまとめる。2. テキストを読んで考えたことをまとめておく。	4時間
第10回	<b>学校運営協議会設置規則の分析</b>	1. テキスト「コミュニティ・スクールの成果と展望」(第6章 学校運営協議会設置規則の分析)を読み、自分なりにレジュメにまとめる。発表担当者は、相手に伝わるように意識してまとめる。2. テキストを読んで考えたことをまとめておく。	4時間
第11回	<b>学校運営協議会の法定権限の規定要因</b>	1. テキスト「コミュニティ・スクールの成果と展望」(第7章 学校運営協議会の法定権限の規定要因)を読み、自分なりにレジュメにまとめる。発表担当者は、相手に伝わるように意識してまとめる。2. テキストを読んで考えたことをまとめておく。	4時間
第12回	<b>コミュニティ・スクールの成果検証の目的と方法</b>	1. テキスト「コミュニティ・スクールの成果と展望」(第8章 コミュニティ・スクールの成果検証の目的と方法)を読み、自分なりにレジュメにまとめる。発表担当者は、相手に伝わるように意識してまとめる。2. テキストを読んで考えたことをまとめておく。	4時間
第13回	<b>学校運営協議会の活動実態</b>	1. テキスト「コミュニティ・スクールの成果と展望」(第9章 学校運営協議会の活動実態)を読み、自分なりにレジュメにまとめる。発表担当者は、相手に伝わるように意識してまとめる。2. テキストを読んで考えたことをまとめておく。	4時間
第14回	<b>コミュニティ・スクールの成果と校長の自己評価</b>	1. テキスト「コミュニティ・スクールの成果と展望」(第10章 コミュニティ・スクールの成果と校長の自己評価 1～3節)を読み、自分なりにレジュメにまとめる。発表担当者は、相手に伝わるように意識してまとめる。2. テキストを読んで考えたことをまとめておく。	4時間
第15回	<b>コミュニティ・スクールの成果と校長の自己評価</b>	1. テキスト「コミュニティ・スクールの成果と展望」(第10章 コミュニティ・スクールの成果と校長の自己評価 4～6節)を読み、自分なりにレジュメにまとめる。発表担当者は、相手に伝わるように意識してまとめる。2. テキストを読んで考えたことをまとめておく。3. これまでの講義を振り返って、コミュニティ・スクールの成果と課題をまとめておく。	4時間



授業科目名	<b>シチズンシップ教育特論</b>				
担当教員名	小原 淳一				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

### 授業概要

シチズンシップ（市民性）とは、民主主義社会の構成員として自立した思考と判断を行い、政治や社会の意思決定や問題解決に能動的に参加する資質を指す概念である。そうした社会創造の価値・知識・技能を涵養する教育が、シチズンシップ教育である。人口変動やグローバル化、社会的排除の広がりなど、大きな社会変容の只中において、求められるシチズンシップ教育もまた変化している。事例を手掛かりにシチズンシップ教育への理解を深め、実践に向けての足場を構築していく。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	シチズンシップ教育の理論	(1)シチズンシップ教育の基盤となっている各種理論を理解する。 (2)現在展開されているシチズンシップ教育への批判を理解する。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	シチズンシップ教育の実践	(3)国内外のシチズンシップ教育の事例を通じて、実践の方向性を見出す。 (4)シチズンシップ教育への深い理解に基づき、自らの現場での授業設計ができるようになる。
汎用的な力		(5)批判的知性に基づいて、既存の実践の課題を見出せるようになる。
1．DP4. 課題発見		

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業内発表及びミニレポートの内容	: 到達目標(1)(2)(3)に対応して、理解の網羅性と明瞭性を評価する 60%
授業内発表及び期末レポートの内容	: 到達目標(4)(5)に対応して、具体性と理論との接続性を評価する 40%

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
唐木清志・岡田泰孝・杉浦真理・川中大輔監修	『シチズンシップ教育で創る学校の未来』	・ 東洋館出版社	・ 2015年

### 参考文献等

長沼豊・大久保正弘編『社会を変える教育』キーステージ21、2012年  
バーナード・クリック『シチズンシップ教育論』法政大学出版局、2011年  
小玉重夫『教育政治学を拓く』勁草書房、2016年  
岡野八代『シチズンシップの政治学 [増補版]』白澤社、2009年  
ガート・ピースタ『民主主義を学習する』勁草書房、2014年  
若槻健『未来を切り拓く市民性教育』関西大学出版部、2014年  
杉本厚夫・高乗秀明・水山光春『教育の3C時代』世界思想者、2008年  
福井明子編『世界のシチズンシップ教育』東信堂、2007年  
北山夕華『英国のシチズンシップ教育』早稲田大学出版会、2014年  
杉浦真理『シチズンシップ教育のすすめ』法律文化社、2013年  
橋本渉『シチズンシップの授業』東洋館出版社、2014年  
ワークショップ・ミュン編著『「まなび」の時代へ』小学館、1999年  
加藤哲夫『市民の日本語』ひつじ市民新書、2002年

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業前後の直接対話、もしくは電子メール
場所：	授業教室

### 授業計画

第1回	コースオリエンテーション：子供・若者が社会参加するとは、どういうことか？	次回授業内容に関連する指定文献を読み、各自が気になったキーワード15個を用いて、3つの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめること。	授業外学修課題にかかる目安の時間
			4時間

	<p>敢えてシティズンシップ教育の目標を端的に示せば、社会参加の推進であると言える。では、社会参加とはどのような行為だろうか。また、なぜ社会参加は推進される必要があるのだろうか。「社会」や「参加」という言葉に対する学習者の持つ考えも手がかりに、本講義では「社会参加」の定義や意義を確認していく。この際、社会参加をどのような観点から推進するのかで分かれる二つのアプローチについても扱い、本コースがどのようなポジションから展開されていくものであるのか、前提を共有する。</p>		
第2回	<p><b>シティズンシップ教育とは何か？（1）「教育」の目標から考える</b></p> <p>本講義では、まずシティズンシップ論の変遷を概観した上で、現代的なシティズンシップ教育の定義を行う。次に、「公的な教育」の中でシティズンシップ教育をどのように位置づけることが適当であるか考えるかを検討する。その上で、学習者からの課題発表と全体討議を進めながら、シティズンシップ教育の輪郭を捉えていくこととする。</p>	<p>次回授業内容に関連する指定文献を読み、各自が気になったキーワード15個を用いて、3つの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。</p>	4時間
第3回	<p><b>シティズンシップ教育の実践事例（1）市民の社会的関与／政治的関与に向けた学びの実践</b></p> <p>ノンフォーマル教育の実践事例検討からシティズンシップ教育の実際と、子供・若者の多様な社会参加について理解を深めていく。その上で、学習者からの課題発表と全体討議を進めながら、その要諦や課題について考察を深めていくこととする。</p>	<p>次回授業内容に関連する指定文献を読み、各自が気になったキーワード15個を用いて、3つの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。発表担当者は、これに加えて内容のレビューとクリティークを行ない、レジュメにまとめてくること。</p>	4時間
第4回	<p><b>シティズンシップ教育の実践事例（2）日本における先進的取組</b></p> <p>フォーマル教育における体系的な実践事例検討から、小学校・中学校・高等学校の各校種でのシティズンシップ教育の展開について理解を深めていく。その上で、学習者からの課題発表と全体討議を進めながら、その要諦や課題について考察を深めていくこととする。</p>	<p>次回授業内容に関連する指定文献を読み、各自が気になったキーワード15個を用いて、3つの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。発表担当者は、これに加えて内容のレビューとクリティークを行ない、レジュメにまとめてくること。</p>	4時間
第5回	<p><b>シティズンシップ教育の実践事例（3）教科教育からの接近（社会科、算数科、体育科、家庭科）</b></p> <p>先行事例を手掛かりとして各教科でのシティズンシップ教育の実際について理解を深めていく。その上で、学習者からの課題発表と全体討議を進めながら、その要諦や他の具体的方法について考察を深めていくこととする。</p>	<p>次回授業内容に関連する指定文献を読み、各自が気になったキーワード15個を用いて、3つの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。発表担当者は、これに加えて内容のレビューとクリティークを行ない、レジュメにまとめてくること。</p>	4時間
第6回	<p><b>シティズンシップ教育の実践事例（4）教科教育等からの接近（道徳、総合的な学習、特別活動、学校設定科目）</b></p> <p>先行事例を手掛かりとして各教科等でのシティズンシップ教育の実際について理解を深めていく。その上で、学習者からの課題発表と全体討議を進めながら、その要諦や他の具体的方法について考察を深めていくこととする。</p>	<p>次回授業内容に関連する指定文献を読み、各自が気になったキーワード15個を用いて、3つの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。発表担当者は、これに加えて内容のレビューとクリティークを行ない、レジュメにまとめてくること。</p>	4時間
第7回	<p><b>シティズンシップ教育の実践事例（5）隣接領域からの接近（多文化教育、人権教育、開発教育、ESD）</b></p> <p>先行事例を手掛かりとして隣接領域でのシティズンシップ教育の実際について理解を深めていく。その上で、学習者からの課題発表と全体討議を進めながら、その要諦や他の具体的方法について考察を深めていくこととする。</p>	<p>次回授業内容に関連する指定文献を読み、各自が気になったキーワード15個を用いて、3つの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。発表担当者は、これに加えて内容のレビューとクリティークを行ない、レジュメにまとめてくること。</p>	4時間
第8回	<p><b>シティズンシップ教育の実践事例（6）隣接領域からの接近（防災、ボランティア、消費者、キャリア教育）</b></p> <p>先行事例を手掛かりとして隣接領域でのシティズンシップ教育の実際について理解を深めていく。その上で、学習者からの課題発表と全体討議を進めながら、その要諦や他の具体的方法について考察を深めていくこととする。</p>	<p>次回授業内容に関連する指定文献を読み、各自が気になったキーワード15個を用いて、3つの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。発表担当者は、これに加えて内容のレビューとクリティークを行ない、レジュメにまとめてくること。</p>	4時間
第9回	<p><b>シティズンシップ教育の実践事例（7）隣接領域からの接近（法教育、模擬選挙、マニフェスト学習）</b></p> <p>先行事例を手掛かりとして隣接領域でのシティズンシップ教育の実際について理解を深めていく。その上で、学習者からの課題発表と全体討議を進めながら、その要諦や他の具体的方法について考察を深めていくこととする。</p>	<p>次回授業内容に関連する指定文献を読み、各自が気になったキーワード15個を用いて、3つの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。発表担当者は、これに加えて内容のレビューとクリティークを行ない、レジュメにまとめてくること。</p>	4時間
第10回	<p><b>シティズンシップ教育とは何か？（2）「シティズンシップ」の問い直しから考える</b></p> <p>シティズンシップ教育に関する批判的検討を行うため、本講義ではシティズンシップ概念の持つ排他性に着目する。グローバル化が進展する中、近代国民国家を前提とするシティズンシップ教育には、いくつかの重要な課題が生じている。「移動する人々」が包摂されるシティズンシップ教育の実際について、学習者の課題発表と全体討議で考察していく。</p>	<p>次回授業内容に関連する指定文献を読み、各自が気になったキーワード15個を用いて、3つの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。発表担当者は、これに加えて内容のレビューとクリティークを行ない、レジュメにまとめてくること。</p>	4時間
第11回	<p><b>シティズンシップ教育へのニーズ（世界的動向から必要性を考える）</b></p>	<p>次回授業内容に関連する指定文献を読み、各自が気になったキーワード15個を用いて、3つの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。発表担当者は、これに加えて内容のレビューとクリティークを行ない、レジュメにまとめてくること。</p>	4時間

	シティズンシップ教育に関する批判的検討を行うため、本講義ではシティズンシップ教育を巡る世界的な動向に着目する。まず、世界各地のシティズンシップ教育のいくつかを概観した上で、一部地域で見られる人格教育への傾斜の問題性を確認する。そして、学習者の課題発表と全体討議を通じて、シティズンシップ教育の望ましい推進方向について考察していく。		
第12回	<b>シティズンシップ教育への欲望（批判的見解から問題点を考える）</b>  シティズンシップ教育に関する批判的検討を行うため、本講義ではシティズンシップ教育への社会的要請の高まりの背景について検討していく。歪な人口構成での人口減少社会に突入することで福祉国家が危機を迎え、また「個人化」が徹底されて中間集団も脆弱化している中で、「社会的なもの」の再構成に教育はどう関わっていくのか、学習者の課題発表と全体討議で考察していく。	本コースでの学修を臨床化する課題に取り組むにあたって、自らに課す条件を整理してくる。	4時間
第13回	<b>シティズンシップ教育のデザイン（1）目的と目標、評価法を定める</b> 本コースの学びを振り返った上で、自らの「現場」におけるシティズンシップ教育実践をデザインしていく。そこで、本講義ではその目的と目標、評価方法についてグループで意見交換を行いながら、個人で設計していく。	授業内の実習課題を完成させ、具体的な授業アイデアを検討してくる。	4時間
第14回	<b>シティズンシップ教育のデザイン（2）方法とツール、体制を定める</b> 本コースの学びを振り返った上で、自らの「現場」におけるシティズンシップ教育実践をデザインしていく。そこで、本講義ではその具体的内容と実行体制についてグループで意見交換を行いながら、個人で設計していく。	授業内の実習課題を完成させ、授業案に関するプレゼンテーション資料を制作してくる。	4時間
第15回	<b>総括：シティズンシップ教育が育む「市民」とは？</b>  本コースの学びの集大成として、自らの「現場」におけるシティズンシップ教育実践の構想を発表し、自らが教育活動を通じてどのような「市民」を育みたいのかを明確化する。その上で、21世紀社会デザインにおける市民像を巡る全体討議を行い、全体の総括とする。	本コースの学びに関するリフレクションを行い、自己にとってどのような意味を有したのかをレポートにまとめる。	4時間

授業科目名	<b>インクルーシブ教育特論</b>				
担当教員名	石塚謙二				
学年・コース等	2年	開講時期	通年	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	特別支援学校教員としての実践や、県教育委員会指導主事としての教員への指導・助言、国立特別支援教育総合研究所研究室長としての研究活動、文科省特別支援教育調査官としての特別支援学校学習指導要領改訂及び特別支援教育制度改正などの取組による経験や知見を踏まえ、法令等の意義や構造をはじめとして、今日				

### 授業概要

最初に「インクルージョン」の基本的な考え方を学ぶ。次いで、障害のある児童生徒に対する教育制度等に関する情報収集を行い、インクルーシブ教育の観点も含めて実施状況及びその課題を探究。特別支援学校等では、「交流及び共同学習」の実施が義務付けられており、その情報収集をもとに課題及び解決策を検討する。全体的には、インクルーシブ教育システムの構築に資する実践等を収集し、学校教育における「共生社会」を目指した取組に関する知見を明確にし、その定着を図る。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	インクルーシブ教育や特別支援教育の理解	インクルーシブ教育や特別支援教育に関する思想・仕組み・制度及び学校における必要な取組を理解することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		インターネットや書籍の情報をもとに、インクルーシブ教育や特別支援教育に関する課題を明らかにすることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習（PBL）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
研究協議等参加度	30%
事前学習レポート・研究協議まとめ提出	30%
到達度期末試験	40%

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
廣瀬由美子（明星大学） 二（桃山学院大学）	石塚謙二 特別支援教育～アクティベート教育論シリーズ～	・ ミネルバ書房	・ 2019年

### 参考文献等

適宜、授業内で参考となる資料を紹介・配付する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション及びインクルージョンに関する基本的な理解（1）</b> ・授業の方法及び評価について、インクルージョンの潮流や背景など インクルーシブ教育に関する法令等や思想などについて概説。 特別支援教育の基本的な考え方や制度などについて概説。	4時間
第2回	<b>インクルージョンに関する基本的な理解（2）</b> ・主としてインクルージョンの考え方や学校教育との関連 インクルーシブ教育やノーマライゼーションの考え方を共有しつつ、学校教育における課題等を明らかにする。	4時間
第3回	<b>障害者権利条約と関連する制度・法令等</b> ・各自が取り組んできた障害のある児童生徒への支援等の取組をレポートにまとめる。	4時間



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者権利条約の基本と学校教育との関連、障害者基本法や障害者差別解消推進法など</li> <li>・障害者権利条約における規定や関係法令等を明らかにしつつ、学校教育への影響や課題を明らかにする。</li> </ul>		
第4回	<p><b>障害者権利条約におけるインクルーシブ教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育の基本的な考え方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育システムについて、実際の状況を調査し、レポートにまとめる。</li> </ul>	4時間
第5回	<p><b>インクルーシブ教育システムの理解（１）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育を目指す制度や仕組み</li> <li>各自が取り組んできた障害のある児童生徒への支援内容を踏まえつつ、それを支える制度や仕組みがどのようになっているかを明らかにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育を目指す際の課題と考えられることを調査し、レポートにまとめる。</li> </ul>	4時間
第6回	<p><b>インクルーシブ教育システムの理解（２）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育を目指す際のシステム上の課題</li> <li>学校教育においてインクルーシブ教育を進める際の制度上の課題を、実際の指導に必要な手立てを踏まえつつ明らかにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校の制度等を調査し、基本的な構造をレポートにまとめる。</li> </ul>	4時間
第7回	<p><b>特別支援教育に関する制度・法令等（１）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校における教育課程編成等に係る制度・法令等</li> <li>我が国の特別支援に係る制度・法令等の意義や仕組みを、実際の指導状況と照らし合わせつつ理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校等における特別な教育課程編成等を調査し、レポートにまとめる。</li> </ul>	4時間
第8回	<p><b>特別支援教育に関する制度・法令等（２）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の学校における教育課程編成等に係る制度・法令等、中間考査</li> <li>小・中学校等における特別な教育課程の實際を踏まえつつ、関連する法令等・制度を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校等における「交流及び共同学習」について、課題と考えられることをレポートにまとめる。</li> </ul>	4時間
第9回	<p><b>「交流及び共同学習」の實際</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校等における「交流及び共同学習」に関する関連法令・ガイドライン</li> <li>特別支援学校等における實踐を踏まえつつ、「交流及び共同学習」に関する関連法令・ガイドラインの意義を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の「交流及び共同学習」の経験を振り返り、その課題をレポートにまとめる。</li> </ul>	4時間
第10回	<p><b>「交流及び共同学習」における課題と対応策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「交流及び共同学習」の効果的な實踐の内容・方法等</li> <li>各自の経験を踏まえつつ、学校教育において、「交流及び共同学習」の効果的な實踐の内容・方法を明らかにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの子も分かることを目指す授業の工夫や障害のある児童生徒へ授業における配慮について、その基本的な考え方をレポートにまとめる。</li> </ul>	4時間
第11回	<p><b>通常の学級におけるインクルーシブ教育システムの取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のユニバーサルデザインと合理的配慮</li> <li>授業のユニバーサルデザインの基本的な考え方や實際の取組、「合理的配慮」の在り方を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の学級におけるインクルーシブ教育の課題についてレポートにまとめる。</li> </ul>	4時間
第12回	<p><b>通常の学級におけるインクルーシブ教育システムの課題と対応策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育の効果的な實踐のための内容・方法等</li> <li>通常の学級におけるインクルーシブ教育の課題に対応する具体的な方策を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「共生社会」について調査し、そのあり方をレポートにまとめる。</li> </ul>	4時間
第13回	<p><b>「共生社会」に実現に向けた学校教育における取組（１）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育を充実させるための学校における全体的な教育活動</li> <li>学校における「共生社会」の実現を目指す際の重要な取組を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「共生社会」の実現のための学校と他の機関の連携に関する経験を振り返り、その課題をレポートにまとめる。</li> </ul>	4時間
第14回	<p><b>「共生社会」に実現に向けた学校教育における取組（２）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育を充実させるために必要な関係機関・地域社会との連携等</li> <li>インクルーシブ教育を充実させるために必要な関係機関等を明らかにしつつ、地域社会との効果的な連携等の在り方を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの授業内容を振り返り、インクルーシブ教育を實際に展開するための方策について、実現可能なことをレポートにまとめる。</li> </ul>	4時間
第15回	<p><b>総括</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育を充実させるための具体的な改善事項等の集約</li> <li>各自がインクルーシブ教育を展開するための実現可能な方策について発表し、学校における努力の方向を明らかにする。</li> </ul>		4時間

授業科目名	<b>研究指導 I</b>				
担当教員名	三村寛一				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

### 授業概要

「研究指導 I～同IV」は、個々の研究テーマについて、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究します。このうち「研究指導 I」においては、修士論文のテーマ設定に向けて、その理論的基盤を先行研究の概観をとおして修得する。この中で、子どもの発育発達を中心とした課題と実践に関する研究に取り組むために、関連分野の国内外の研究成果に関する検討を行った上で、研究倫理についての理解も含め、研究姿勢の基礎を体得し、修士論文作成への心構えを身につける。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b>	<b>具体的内容：</b>	<b>目標：</b>
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	研究の意義、先行研究の検討、研究倫理	研究の意義を理解し、修士論文のテーマを明確にする。
<b>汎用的な力</b>		
1 . DP4. 課題発見		先行研究を踏まえた研究課題を見出すことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。  
 授業における発表については、①問題意識の明確化の過程、②先行研究の探索状況、③研究テーマの設定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。  
 レポートについては、①研究倫理に関するもの、②各自の研究テーマに関するものについて作成したものを評価する。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業時における発表	60%	： 授業における発表については、①問題意識の明確化の過程、②先行研究の探索状況、③研究テーマの設定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40%	： レポートについては、①研究倫理に関するもの、②各自の研究テーマに関するものについて作成したものを評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本学術振興会（以下略）	・ 科学の健全な発展のために一誠実な科学者の心得一	・ 丸善出版	・ 2015年

### 参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業初回に連絡する。

### 授業計画

回数	内容	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>大学院における研究とは</b>  大学院における研究の在り方について理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	<b>これまでの実践経験の省察</b>  各自のこれまでの実践経験をふりかえり、今後の研究の方向性を探る。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	<b>これまでの研究成果の省察</b>  各自のこれまで自らが行った研究についてふりかえり、今後の研究の方向性を探る。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	<b>問題意識の明確化</b>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

	各自の問題意識を明確化することを通して、今後の研究の方向性を探る。		
第5回	<b>先行研究を知ることの意義</b>  学術的背景・社会的背景を明らかにするための先行研究の位置づけについて理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	<b>先行研究に関する文献資料の収集方法</b>  文献資料の収集方法について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	<b>問題意識に関する先行研究の探索</b>  各自の問題意識に関連する先行研究を探索していく。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	<b>問題意識と先行研究との関連</b>  先行研究によって得られた知見と各自の問題意識との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	<b>研究倫理(1) 責任ある研究活動とは</b>  社会における研究行為の責務と研究者に求められることについて、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	<b>研究倫理(2) 研究計画の段階</b>  研究計画段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	<b>研究倫理(3) 研究実施の段階</b>  研究実施段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	<b>研究倫理(4) 成果発表の段階</b>  成果発表段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	<b>研究テーマの構想</b>  各自の研究テーマを具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	<b>研究テーマと研究方法</b>  研究テーマに即した研究方法を具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第15回	<b>研究テーマの設定</b>  社会的背景、学術的背景を踏まえた研究テーマを設定する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

授業科目名	<b>研究指導 I</b>				
担当教員名	安部恵子				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

### 授業概要

「研究指導 I～同IV」は、個々の研究テーマについて、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究します。本講義では、身体健康学、特に予防医学的見地からみた健康と身体の間わりを中心とした課題と実践に関する研究に取り組むために、関連分野の国内外の研究成果に関する検討を行った上で、研究倫理についての理解も含め、研究姿勢の基礎を体得し、修士論文作成への心構えを身につける。この中で、健康教育学、スポーツ科学、身体活動論を中心とした課題と実践に関する研究に取り組むために、関連分野の国内外の研究

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	研究の意義、先行研究の検討、研究倫理	研究の意義を理解し、修士論文のテーマを明確にする。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		先行研究を踏まえた研究課題を見出すことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

授業時における発表（60％）ならびにレポートの成績（40％）を総合して評価する。  
 授業における発表については、①問題意識の明確化の過程、②先行研究の探索状況、③研究テーマの設定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。  
 レポートについては、①研究倫理に関するもの、②各自の研究テーマに関するものについて作成したものを評価する。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業時における発表	60%	： 授業における発表については、①問題意識の明確化の過程、②先行研究の探索状況、③研究テーマの設定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40%	： レポートについては、①研究倫理に関するもの、②各自の研究テーマに関するものについて作成したものを評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本学術振興会（以下略）	・ 科学の健全な発展のために一誠 実な科学者の心得一	・ 丸善出版	・ 2015年

### 参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業初回に連絡する。

### 授業計画

回	内容	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>大学院における研究とは</b>  大学院における研究の在り方について理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	<b>これまでの実践経験の省察</b>  各自のこれまでの実践経験をふりかえり、今後の研究の方向性を探る。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	<b>これまでの研究成果の省察</b>  各自のこれまで自らが行った研究についてふりかえり、今後の研究の方向性を探る。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	<b>問題意識の明確化</b>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

	各自の問題意識を明確化することを通して、今後の研究の方向性を探る。		
第5回	<b>先行研究を知ることの意義</b>  学術的背景・社会的背景を明らかにするための先行研究の位置づけについて理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	<b>先行研究に関する文献資料の収集方法</b>  文献資料の収集方法について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	<b>問題意識に関する先行研究の探索</b>  各自の問題意識に関連する先行研究を探索していく。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	<b>問題意識と先行研究との関連</b>  先行研究によって得られた知見と各自の問題意識との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	<b>研究倫理(1) 責任ある研究活動とは</b>  社会における研究行為の責務と研究者に求められることについて、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	<b>研究倫理(2) 研究計画の段階</b>  研究計画段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	<b>研究倫理(3) 研究実施の段階</b>  研究実施段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	<b>研究倫理(4) 成果発表の段階</b>  成果発表段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	<b>研究テーマの構想</b>  各自の研究テーマを具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	<b>研究テーマと研究方法</b>  研究テーマに即した研究方法を具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第15回	<b>研究テーマの設定</b>  社会的背景、学術的背景を踏まえた研究テーマを設定する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

授業科目名	<b>研究指導 I</b>				
担当教員名	山本智也				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

### 授業概要

「研究指導 I～同IV」は、個々の研究テーマについて、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究します。このうち「研究指導 I」においては、修士論文のテーマ設定に向けて、その理論的基盤を先行研究の概観をとおして修得する。この中で、臨床教育学、特に子どもとその家族に対する関わりを中心とした課題と実践に関する研究に取り組むために、関連分野の国内外の研究成果に関する検討を行った上で、研究倫理についての理解も含め、研究姿勢の基礎を体得し、修士論文作成への心構えを身につける。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b>	<b>具体的内容：</b>	<b>目標：</b>
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	研究の意義、先行研究の検討、研究倫理	研究の意義を理解し、修士論文のテーマを明確にする。
<b>汎用的な力</b>		
1 . DP4. 課題発見		先行研究を踏まえた研究課題を見出すことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業時における発表	60%	： 授業における発表については、①問題意識の明確化の過程、②先行研究の探索状況、③研究テーマの設定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40%	： レポートについては、①研究倫理に関するもの、②各自の研究テーマに関するものについて作成したものを評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本学術振興会（以下略）	・ 科学の健全な発展のために一誠実な科学者の心得一	・ 丸善出版	・ 2015年

### 参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所： 中央館2階個人研究室79

備考・注意事項： 備考・注意事項： 授業外での質問の方法  
質問は授業の前後にも答えるが、Eメールでも対応する。  
メールアドレス：yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp  
ただし、件名に「研究指導1：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>大学院における研究とは</b>  大学院における研究の在り方について理解を深める。	2時間
第2回	<b>これまでの実践経験の省察</b>  各自のこれまでの実践経験をふりかえり、今後の研究の方向性を探る。	2時間
第3回	<b>これまでの研究成果の省察</b>  各自のこれまで自らが行った研究についてふりかえり、今後の研究の方向性を探る。	2時間
第4回	<b>問題意識の明確化</b>	2時間

	各自の問題意識を明確化することを通して、今後の研究の方向性を探る。		
第5回	<b>先行研究を知ることの意義</b>  学術的背景・社会的背景を明らかにするための先行研究の位置づけについて理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	<b>先行研究に関する文献資料の収集方法</b>  文献資料の収集方法について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	<b>問題意識に関する先行研究の探索</b>  各自の問題意識に関連する先行研究を探索していく。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	<b>問題意識と先行研究との関連</b>  先行研究によって得られた知見と各自の問題意識との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	<b>研究倫理(1) 責任ある研究活動とは</b>  社会における研究行為の責務と研究者に求められることについて、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	<b>研究倫理(2) 研究計画の段階</b>  研究計画段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	<b>研究倫理(3) 研究実施の段階</b>  研究実施段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	<b>研究倫理(4) 成果発表の段階</b>  成果発表段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	<b>研究テーマの構想</b>  各自の研究テーマを具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	<b>研究テーマと研究方法</b>  研究テーマに即した研究方法を具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第15回	<b>研究テーマの設定</b>  社会的背景、学術的背景を踏まえた研究テーマを設定する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

授業科目名	<b>研究指導Ⅱ</b>				
担当教員名	三村寛一				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

### 授業概要

「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は個々の研究テーマについて実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導Ⅱ」においては、修士論文作成のための研究構想及び研究計画の具体的策定を見据えたデータの収集・整理・分析方法を修得する。子どもの発育発達を中心とした課題と実践に関する研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できるように指導を行う。特にインタビュー調査による質的分析によるデータの収集・整理・分析の方法を中心とした研究方法の具体化を図る。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

研究構想、研究計画、データの収集・整理・分析方法の習得

#### 目標：

修士論文作成のための研究構想を明らかにし、研究計画を具体的に策定する。

#### 汎用的な力

- DP5. 計画・立案力

研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

授業時における発表（60％）ならびにレポートの成績（40％）を総合して評価する。  
授業における発表については、①研究構想発表、②研究計画策定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。  
レポートについては、研究計画の具体的進捗状況に関するものについて作成したものを評価する。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業時における発表	60%	： 授業における発表については、①研究構想発表、②研究計画策定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40%	： レポートについては、研究計画の具体的進捗状況に関するものを評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業初回に連絡する。

### 授業計画

回数	研究テーマ	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>研究構想と研究計画の具体化とは</b>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 研究構想を明確化した上で、具体的な研究計画を立案する。	2時間
第2回	<b>研究の社会的意義</b>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 研究の社会的意義について明確化する。	2時間
第3回	<b>研究における仮説</b>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 研究における仮説の在り方について理解を深める。	2時間
第4回	<b>研究構想案の作成</b>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 具体的な研究構想案を作成する。	2時間
第5回	<b>研究構想の検討(1)社会的意義との関連</b>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 研究構想案について、社会的意義との関連を明確にする。	2時間



第6回	<b>研究構想の検討(2) 先行研究との関連</b>  研究構想案について、先行研究との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	<b>研究構想の検討(3) 研究方法との関連</b>  研究構想案について、研究方法との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	<b>研究構想発表の準備</b>  研究構想発表会に向けて、具体的な作業に取り組む。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	<b>研究構想発表</b>  研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究構想をさらに具体化する。また、他の学生の研究構想発表・質疑応答を通して、研究の在り方について理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	<b>研究構想発表のふりかえり</b>  研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究構想の再検討を行う。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	<b>研究計画策定について</b>  研究計画を策定する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	<b>研究計画の検討：研究方法の具体化</b>  研究方法を具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	<b>データ収集方法の検討</b>  データ収集の方法の検討を行う。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	<b>データ分析方法の検討</b>  データ分析方法の検討を行う。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第15回	<b>研究計画書の作成</b>  研究計画書の完成を目指す。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

授業科目名	<b>研究指導Ⅱ</b>				
担当教員名	安部恵子				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

### 授業概要

「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は個々の研究テーマについて実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導Ⅱ」においては、修士論文作成のための研究構想及び研究計画の具体的策定を見据えたデータの収集・整理・分析方法を修得する。特に、健康教育、スポーツ科学、身体活動論を中心とした課題と実践に関する研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できるように指導を行う。特にインタビュー調査による質的分析によるデータの収集・整理・分析の方法を中心とした研究方法の具体化を図る。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

研究構想、研究計画、データの収集・整理・分析方法の習得

#### 目標：

修士論文作成のための研究構想を明らかにし、研究計画を具体的に策定する。

#### 汎用的な力

- DP5. 計画・立案力

研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

授業時における発表（60％）ならびにレポートの成績（40％）を総合して評価する。  
授業における発表については、①研究構想発表、②研究計画策定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。  
レポートについては、研究計画の具体的進捗状況に関するものについて作成したものを評価する。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業時における発表	60%	： 授業における発表については、①研究構想発表、②研究計画策定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40%	： レポートについては、研究計画の具体的進捗状況に関するものを評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業初回に連絡する。

### 授業計画

回数	研究テーマ	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>研究構想と研究計画の具体化とは</b>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 研究構想を明確化した上で、具体的な研究計画を立案する。	2時間
第2回	<b>研究の社会的意義</b>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 研究の社会的意義について明確化する。	2時間
第3回	<b>研究における仮説</b>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 研究における仮説の在り方について理解を深める。	2時間
第4回	<b>研究構想案の作成</b>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 具体的な研究構想案を作成する。	2時間
第5回	<b>研究構想の検討(1)社会的意義との関連</b>	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 研究構想案について、社会的意義との関連を明確にする。	2時間

第6回	<b>研究構想の検討(2) 先行研究との関連</b>  研究構想案について、先行研究との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	<b>研究構想の検討(3) 研究方法との関連</b>  研究構想案について、研究方法との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	<b>研究構想発表の準備</b>  研究構想発表会に向けて、具体的な作業に取り組む。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	<b>研究構想発表</b>  研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究構想をさらに具体化する。また、他の学生の研究構想発表・質疑応答を通して、研究の在り方について理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	<b>研究構想発表のふりかえり</b>  研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究構想の再検討を行う。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	<b>研究計画策定について</b>  研究計画を策定する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	<b>研究計画の検討：研究方法の具体化</b>  研究方法を具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	<b>データ収集方法の検討</b>  データ収集の方法の検討を行う。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	<b>データ分析方法の検討</b>  データ分析方法の検討を行う。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第15回	<b>研究計画書の作成</b>  研究計画書の完成を目指す。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

授業科目名	<b>研究指導Ⅱ</b>				
担当教員名	山本智也				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

### 授業概要

「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は個々の研究テーマについて実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導Ⅱ」においては、修士論文作成のための研究構想及び研究計画の具体的策定を見据えたデータの収集・整理・分析方法を修得する。臨床教育学、特に子どもとその家族に対する関わりを中心とした課題と実践に関する研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できるように指導を行う。特にインタビュー調査による質的分析によるデータの収集・整理・分析の方法を中心とした研究方法の具体化を図る。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

研究構想、研究計画、データの収集・整理・分析方法の習得

#### 目標：

修士論文作成のための研究構想を明らかにし、研究計画を具体的に策定する。

#### 汎用的な力

- DP5. 計画・立案力

研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。

#### 成績評価の方法・評価の割合

授業時における発表

#### 評価の基準

： 授業における発表については、①研究構想発表、②研究計画策定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。

60%

レポート

： レポートについては、研究計画の具体的進捗状況に関するものを評価する。

40%

### 使用教科書

指定する

#### 著者

日本学術振興会（以下略）

#### タイトル

・ 科学の健全な発展のためにー誠実な科学者の心得ー

#### 出版社

・ 丸善出版

#### 出版年

・ 2015年

### 参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所： 中央館2階個人研究室79

備考・注意事項：

授業外での質問の方法

質問は授業の前後にも答えるが、Eメールでも対応する。

メールアドレス：yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp

ただし、件名に「研究指導2：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

### 授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>研究構想と研究計画の具体化とは</b>  研究構想を明確化した上で、具体的な研究計画を立案する。	2時間  当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。
第2回	<b>研究の社会的意義</b>  研究の社会的意義について明確化する。	2時間  当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。
第3回	<b>研究における仮説</b>  研究における仮説の在り方について理解を深める。	2時間  当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。
第4回	<b>研究構想案の作成</b>  具体的な研究構想案を作成する。	2時間  当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

第5回	<b>研究構想の検討(1) 社会的意義との関連</b>  研究構想案について、社会的意義との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	<b>研究構想の検討(2) 先行研究との関連</b>  研究構想案について、先行研究との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	<b>研究構想の検討(3) 研究方法との関連</b>  研究構想案について、研究方法との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	<b>研究構想発表の準備</b>  研究構想発表会に向けて、具体的な作業に取り組む。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	<b>研究構想発表</b>  研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究構想をさらに具体化する。また、他の学生の研究構想発表・質疑応答を通して、研究の在り方について理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	<b>研究構想発表のふりかえり</b>  研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究構想の再検討を行う。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	<b>研究計画策定について</b>  研究計画を策定する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	<b>研究計画の検討：研究方法の具体化</b>  研究方法を具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	<b>データ収集方法の検討</b>  データ収集の方法の検討を行う。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	<b>データ分析方法の検討</b>  データ分析方法の検討を行う。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第15回	<b>研究計画書の作成</b>  研究計画書の完成を目指す。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

授業科目名	<b>研究指導Ⅲ</b>				
担当教員名	三村寛一				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

### 授業概要

「研究指導Ⅲ」においては、先行研究論文の探求や教育実践に資する調査研究の実施、データの収集及び分析を進めていき、修士論文中間報告会における報告と、そこでのフィードバックを通して、妥当性・信頼性のある、より質の高い研究をめざす。この中で、身体健康学、特に予防医学的見地からみた健康と身体の関わりを中心とした課題と実践に関する研究計画人に基づき、フィールド調査による質的分析を実施し、データの収集・整理・分析に関する指導を行う。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

データの収集・整理・分析

#### 目標：

フィールド調査によるデータの収集・整理・分析に関する指導を行う。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

修士論文作成に向けて各自が妥当性・信頼性のあるより質の高い研究ができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業時における発表

60%

： 授業における発表については、①研究中間発表、②データ分析のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。

レポート

40%

： レポートについては、データ分析の具体的進捗状況に関するものを評価する。

### 使用教科書

指定する

#### 著者

日本学術振興会（以下略）

#### タイトル

・ 科学の健全な発展のために一誠実な科学者の心得一

#### 出版社

・ 丸善出版

#### 出版年

・ 2015年

### 参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所： 中央館2階個人研究室72

備考・注意事項： 授業外での質問の方法

質問は授業の前後にも答えるが、Eメールでも対応する（講義時に提示）。

### 授業計画

回数	内容	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	「研究指導Ⅰ～Ⅱ」を通しての学びの省察  これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、今後の研究計画を確認します。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	データ収集実施の具体的な手順  データ収集の具体的な手順を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	データ収集時における倫理的配慮の再確認  データ収集時における倫理的配慮の再確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	データ収集状況の確認  データ収集のこれまでの状況を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

第5回	<b>データ収集過程の再検討</b>  データ収集の過程を再度吟味していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	<b>データ分析方法の具体的手順</b>  データ分析の具体的な手順を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	<b>データ分析方法の確認</b>  データの分析方法について確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	<b>研究中間発表の準備</b>  研究中間発表に向けた発表内容の準備をします。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	<b>研究中間発表</b>  研究中間発表に取り組みます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	<b>研究中間発表のふりかえり</b>  研究中間発表をふりかえり、今後取り組むべき課題を整理します。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	<b>データ分析方法の再検討</b>  データ分析方法を必要に応じて再検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	<b>研究の妥当性と信頼性</b>  研究の妥当性と信頼性について、具体的な研究活動と関連づけながら、理解を深めます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	<b>データ分析の実施</b>  収集したデータをもとにその分析を実施していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	<b>分析結果の検討</b>  データの分析結果を受け、その内容を吟味していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第15回	<b>分析結果の具体的記述</b>  分析結果を具体的に記述しています。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

授業科目名	<b>研究指導Ⅲ</b>				
担当教員名	米田 薫				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

### 授業概要

「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は、修士論文作成のための授業であり、フィールドワークとケースメソッドによる省察から生まれた、個々の研究テーマを、フィールドワークを継続しながら探究し、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導Ⅲ」においては、先行研究論文の探求や教育実践に資する調査研究の実施、データの収集及び分析を進めていき、修士論文中間報告会における報告と、そこでのフィードバックを通して、妥当性・信頼性のある、より質の高い研究をめざす。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

データの収集・整理・分析

#### 目標：

研究計画に基づいたデータの収集、整理、分析を行う。

#### 汎用的な力

- DP6. 行動・実践

研究計画に基づいてデータの収集、整理、分析が実践できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業時における発表	50%	: 授業における発表については、①研究中間発表、②データ分析のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	50%	: レポートについては、データ分析の具体的進捗状況に関するものを評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所： 中央館 2 階個人研究室79

備考・注意事項： 授業外での質問の方法  
質問は授業の前後にも答えるが、Eメールでも対応する。  
メールアドレス：yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp  
ただし、件名に「研究指導3：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

### 授業計画

回数	内容	前時の内容整理と、本時に必要な文献の講読。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>「研究指導Ⅰ～Ⅱ」を通しての学びの省察</b> これまでの研究の取り組みや到達状況を確認し、今後の研究計画を調整します。	前時の内容整理と、本時に必要な文献の講読。	2時間
第2回	<b>データ収集実施の具体的手順</b> データ収集の具体的な手順を確認します。	前時の内容整理と、本時に必要な文献の講読。	2時間
第3回	<b>データ収集時における倫理的配慮の再確認</b> データ収集時における倫理的配慮について再確認します。	前時の内容整理と、本時に必要な文献の講読。	2時間
第4回	<b>データ収集状況の確認</b> データ収集のこれまでの状況を確認します。	前時の内容整理と、本時に必要な文献の講読。	2時間
第5回	<b>データ収集過程の再検討</b> データ収集の過程を再吟味します。	前時の内容整理と、本時に必要な文献の講読。	2時間
第6回	<b>データ分析方法の具体的手順</b> データ分析の具体的な手順を確認します。	前時の内容整理と、本時に必要な文献の講読。	2時間
第7回	<b>データ分析方法の確認</b> データの分析方法について確認します。	前時の内容整理と、本時に必要な文献の講読。	2時間



第8回	<b>研究中間発表の準備</b> 研究中間発表に向けた発表内容の準備をします。	前時の内容整理と、本時に必要な文献の講読。	2時間
第9回	<b>研究中間発表</b> 研究中間発表に取り組みます。	前時の内容整理と、本時に必要な文献の講読。	2時間
第10回	<b>研究中間発表のふりかえり</b> 研究中間発表をふりかえり、今後に向けて取り組むべき課題を整理します。	前時の内容整理と、本時に必要な文献の講読。	2時間
第11回	<b>データ分析方法の再検討</b> データ分析方法を必要に応じて再検討します。	前時の内容整理と、本時に必要な文献の講読。	2時間
第12回	<b>研究の妥当性と信頼性</b> 研究の妥当性と信頼性について、具体的な研究活動と関連づけながら理解を深めます。	前時の内容整理と、本時に必要な文献の講読。	2時間
第13回	<b>データ分析の実施</b> 収集したデータをもとにその分析を実施します。	前時の内容整理と、本時に必要な文献の講読。	2時間
第14回	<b>分析結果の検討</b> データの分析結果を受け、その内容を吟味します。	前時の内容整理と、本時に必要な文献の講読。	2時間
第15回	<b>分析結果の具体的記述</b> 分析結果を具体的に記述します。	当前時の内容整理と、本時に必要な文献の講読。	2時間

授業科目名	<b>研究指導Ⅳ</b>				
担当教員名	三村寛一				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

### 授業概要

「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は、個々の研究テーマを探究し、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導Ⅳ」においては、修士論文の到達点を明確にし、データの分析結果を踏まえ、研究課題についての理論構築を図り、論文構成を洗練させ、修士論文の完成をめざす。この中で、身体健康学、特にyp棒医学の見地から見た健康と身体の関わりを中心とした課題と実践に関する研究について、特に、研究結果を踏まえて、教育に関する実践的課題を踏まえた考察を深めた修士論文の完成をめざす。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

理論構築、オリジナリティ、省察

#### 目標：

修士論文を完成させることができる。自らの研究過程を具体的に省察することができる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

データの分析結果を踏まえ、研究課題についての理論構築を図ることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業時における発表

60%

： ①考察の検討、②研究のふりかえりについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。

レポート

40%

： レポートについては、研究への取り組みについての全般的な省察に関するものを評価する。

### 使用教科書

指定する

#### 著者

日本学術振興会（以下略）

#### タイトル

・ 科学の健全な発展のために一誠  
実な科学者の心得一

#### 出版社

・ 丸善出版

#### 出版年

・ 2015年

### 参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所： 中央館2階個人研究室79

備考・注意事項：

授業外での質問の方法

質問は授業の前後にも答えるが、Eメールでも対応する。

メールアドレス：yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp

ただし、件名に「研究指導4：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

### 授業計画

第1回	「研究指導Ⅰ～Ⅲ」を通しての学びの省察	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	授業外学修課題にかかる目安の時間
	これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、今後の研究計画を確認します。		2時間
第2回	研究テーマとこれまでの論術内容の確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	これまでの論述内容と研究テーマの整合性を確認していきます。		
第3回	先行研究と論文テーマとの関連の再確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	先行研究と研究テーマの関連性を再確認していきます。		
第4回	考察の検討(1)結果との関連性	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	結果と考察の関連性を検討していきます。		

第5回	<b>考察の検討(2) 研究成果の社会的貢献</b>  研究成果の社会的貢献という視点で考察を検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	<b>考察の検討(3) 本研究の限界に関する検討</b>  本研究を全般的にとらえ、研究の限界と今後の研究のあり方について検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	<b>論文の論述と内容の確認(論文全体の構成を中心に)</b>  論文全体の構成を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	<b>論文の論述と内容の確認(章・節の構成を中心に)</b>  章・節の構成を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	<b>論文の論述と内容の確認(引用・注釈の表示を中心に)</b>  引用・注釈の表示を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	<b>論文の論述と内容の確認(引用文献と参考文献を中心に)</b>  引用文献と参考文献を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	<b>論文の論述と内容の確認(図表の表示を中心に)</b>  図表の表示を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	<b>論文提出のための最終確認</b>  論文提出のための最終確認をしていきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	<b>研究過程全体のふりかえり</b>  研究過程全体を中心に自らの研究をふりかえります。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	<b>研究成果のふりかえり</b>  研究成果の観点から、自らの研究をふりかえります。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第15回	<b>今後の研究に向けた取り組み</b>  これまでの研究をふりかえり、今後の研究課題を明確化していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

授業科目名	<b>研究指導Ⅳ</b>				
担当教員名	米田 薫				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

### 授業概要

「研究指導Ⅰ～Ⅳ」は、個々の研究テーマを探究し、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導Ⅳ」においては、修士論文の到達点を明確にし、データの分析結果を踏まえ、研究課題についての理論構築を図り、論文構成を洗練させ、修士論文の完成をめざす。さらに、取り組んだ研究課題について、大学院修了後にいかに実践に活用し、いかに研究を発展させるかを展望したい。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b>	<b>具体的内容：</b>	<b>目標：</b>
1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	データの分析結果に基づく考察	データに基づく考察を深め、修士論文を完成させることができる。
<b>汎用的な力</b>		
1 . DP7. 完遂		計画を推進し、実行する

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業時における発表	20%	： ①考察の検討、②研究のふりかえりについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	80%	： レポートについては、研究への取り組みについての全般的な省察に関するものを評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業前後
場所：	中央館5階127研究室

### 授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p><b>「研究指導Ⅰ～Ⅲ」を通しての学びの省察</b></p> <p>これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、今後の研究計画を確認します。</p>	2時間
第2回	<p><b>研究テーマとこれまでの論術内容の確認</b></p> <p>これまでの論術内容と研究テーマの整合性を確認していきます。</p>	2時間
第3回	<p><b>先行研究と論文テーマとの関連の再確認</b></p> <p>先行研究と研究テーマの関連性を再確認していきます。</p>	2時間
第4回	<p><b>考察の検討(1)結果との関連性</b></p> <p>結果と考察の関連性を検討していきます。</p>	2時間
第5回	<p><b>考察の検討(2)研究成果の社会的貢献</b></p> <p>研究成果の社会的貢献という視点で考察を検討していきます。</p>	2時間
第6回	<p><b>考察の検討(3)本研究の限界に関する検討</b></p>	2時間

	本研究を全般的にとらえ、研究の限界と今後の研究のあり方について検討していきます。		
第7回	<b>論文の論述と内容の確認（論文全体の構成を中心に）</b>  論文全体の構成を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	<b>論文の論述と内容の確認（章・節の構成を中心に）</b>  章・節の構成を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	<b>論文の論述と内容の確認（引用・注釈の表示を中心に）</b>  引用・注釈の表示を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	<b>論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献を中心に）</b>  引用文献と参考文献を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	<b>論文の論述と内容の確認（図表の表示を中心に）</b>  図表の表示を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	<b>論文提出のための最終確認</b>  論文提出のための最終確認をしていきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	<b>研究過程全体のふりかえり</b>  研究過程全体を中心に自らの研究をふりかえります。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	<b>研究成果のふりかえり</b>  研究成果の観点から、自らの研究をふりかえります。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第15回	<b>今後の研究に向けた取り組み</b>  これまでの研究をふりかえり、今後の研究課題を明確化していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間